

青森県立高等学校教育改革推進計画

第2期実施計画（案）に関する

東青地区懇談会

青森県教育委員会

高等学校教育改革推進室

本日の目的

- 第2期実施計画（案）の概要についてご説明し、県民の皆様から幅広くご意見をいただくこと
- 今後のスケジュールについてご理解いただくこと

1 県立高校教育改革の背景

2 青森県立高等学校教育改革推進計画 第2期実施計画(案)

第1 第2期実施計画策定の経緯

第2 学校・学科の充実

第3 学校規模・配置

第4 魅力ある高校づくり

第5 県民の理解と協力の下での県立高校教育改革の推進

3 今後のスケジュール

1 県立高校教育改革の背景

○ 社会の急速な変化

グローバル化・情報通信技術の進展、少子高齢化の進行等

○ 高校教育を巡る環境の変化

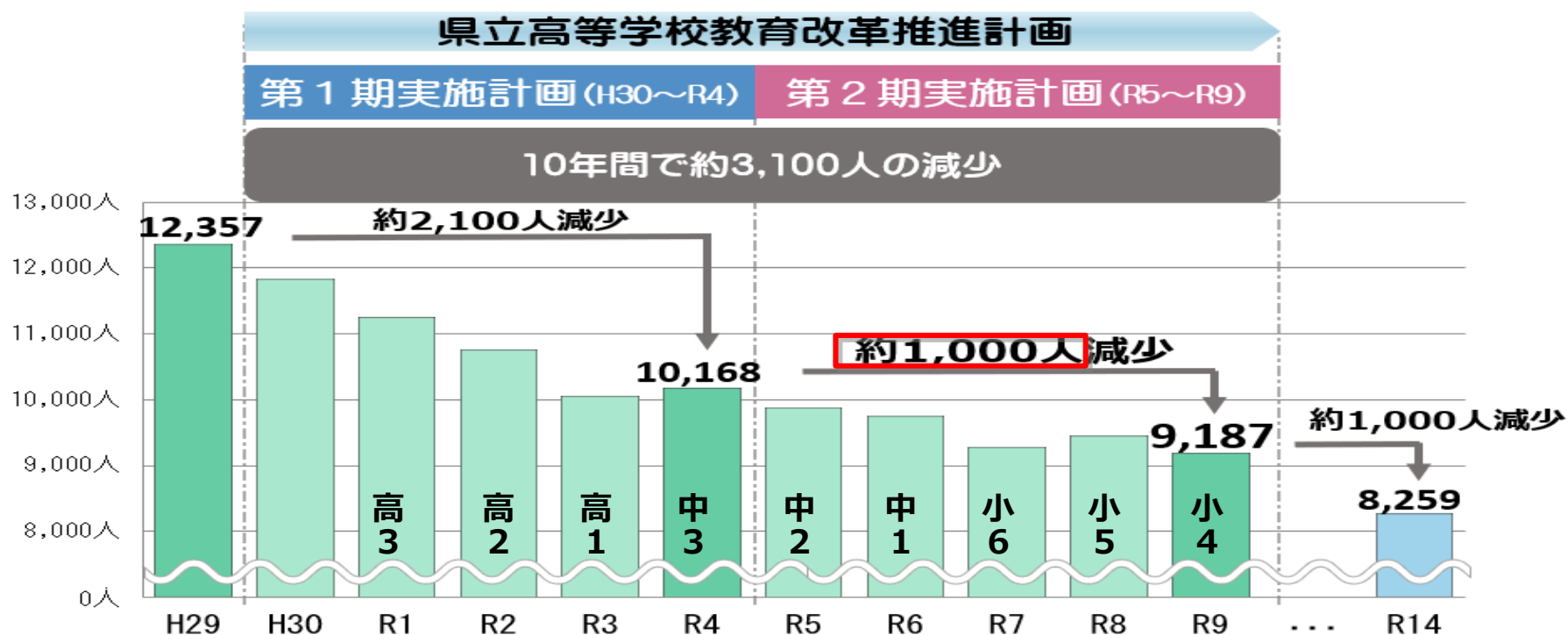
学習指導要領改訂、成年年齢18歳へ引き下げ等

○ 進路志望等の多様化

高校等進学率99%

○ 県全体の中学校卒業予定者数の減少

第2期実施計画期間中に約1,000人減少



※図中の学年は令和3年度時点の学年を示す

1 県立高校教育改革の背景

【目的】

生徒が減少する中であっても、生徒一人一人がこれからの時代に求められる力を身に付け、本県の未来を担う人財[※]として成長することのできる高校教育を目指す。

① これからの時代に求められる力

生きる力

確かな学力

豊かな心

健やかな体



本県が重視する力

たくましい心

学校から社会への円滑な移行に必要な力

郷土に誇りを抱き、青森県の未来を力強く
支えようとする心

② 各高校の特色を生かした人財の育成

地域を支える
人財

社会をけん引
する人財

産業の発展に貢献
する人財

※ 「青森県基本計画『選ばれる青森』への挑戦」等では「人は青森県にとっての『財（たから）』である」という基本的考えから、「人材」を「人財」と表記している

本日の説明内容

1 県立高校教育改革の背景

2 青森県立高等学校教育改革推進計画 第2期実施計画(案)

第1 第2期実施計画策定の経緯

第2 学校・学科の充実

第3 学校規模・配置

第4 魅力ある高校づくり

第5 県民の理解と協力の下での県立高校教育改革の推進

3 今後のスケジュール

第2期実施計画策定の経緯

青森県立高等学校
将来構想検討会議

平成28年1月答申

・県民の意見
〔意見募集、地区懇談会〕

基本方針 (H30からおおむね10年間)
(平成28年8月策定)

・県民の意見
〔パブリック・コメント、地区懇談会〕

第1期実施計画 (H30~R4)
(平成29年7月策定)

・県民の意見
〔各地区3回の地区意見交換会
パブリック・コメント、地区懇談会〕

基本方針改定
(有識者による検証会議を経て令和2年8月改定)

・県民の意見
〔パブリック・コメント、地区懇談会〕

第2期実施計画 (R5~R9)
(令和3年11月以降策定予定)

・県民の意見
〔各地区3回の地区意見交換会
パブリック・コメント、地区懇談会〕

青森県立高等学校
教育改革推進計画

県立高校教育改革推進計画の構成と策定・推進の考え方

県立高校教育改革に関する基本的な考え方 (H30からおおむね10年間)

基本方針 (改定前)

基本方針 (改定後)

H30

R5

R9

第1期実施計画 (H30~R4)

学科改編や地区ごとの具体的な学校規模・配置等

第2期実施計画 (R5~R9)

【第2期実施計画策定・推進の考え方】

- 充実した教育環境の整備と各地域の実情への配慮
- 生徒の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための魅力ある高校づくりの更なる推進

1 県立高校教育改革の背景

2 青森県立高等学校教育改革推進計画 第2期実施計画(案)

第1 第2期実施計画策定の経緯

第2 学校・学科の充実

第3 学校規模・配置

第4 魅力ある高校づくり

第5 県民の理解と協力の下での県立高校教育改革の推進

3 今後のスケジュール

1 全ての高校に共通して求められる教育環境

カリキュラム・マネジメントの適切な実施

〈県教育委員会〉

スクール・ミッション（各校に求められる役割や目指すべき学校像等）の明確化

〈高校〉

スクール・ポリシー（一貫性を持って教育活動を進めるための具体的な方針）を策定

〈高校〉

教育活動の充実を図る**カリキュラム・マネジメント**を適切に実施

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善等

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるとともに、思考力・判断力・表現力・学びに向かう力・人間性等を育成
- STEAM教育の視点を取り入れながら、**探究的な学びを重視した教育活動**を展開
- 主体的・対話的で深い学びの実現等に向けた教員研修を充実

社会人・職業人として自立するために必要な能力や態度の育成

- 小・中学校におけるキャリア教育の成果を受け継ぎながら、**教育活動全体を通じたキャリア教育**を推進
- 地域・企業等と連携したインターンシップや、大学等と連携したアカデミック・インターンシップ等を充実

2 全日制課程

(1) 普通科等※の充実 ※ 普通、理数、スポーツ科学、外国語、表現の各学科

各校の教育環境の充実

- 各校が連携しながら、大学等への進学や就職等の幅広い進路志望に対応
- 科学技術分野、スポーツ分野、国際分野、文化芸術分野等、様々な分野で活躍できる人財の育成に向け、地域の実情に応じた教育活動や各校の特色を生かした取組を推進

重点校と各校の連携による取組

- **探究活動等の特色ある教育活動の中核的役割を担う高校を重点校として配置し、県全体の普通科等における教育の質を確保・向上**
- 重点校が実施する探究活動に係る研究会等に各校の生徒が参加するとともに、学習成果の共有に向けた生徒同士の交流等の連携を推進
- 重点校と各校の円滑な連携に向けた体制を整備

【重点校の配置】

東青地区	西北地区	中南地区	上北地区	下北地区	三八地区
青森高校	五所川原高校	弘前高校	三本木高校	田名部高校	八戸高校

【重点校における連携のイメージ】



【重点校と各校との連携の例】

青森高校：即興型英語ディベート青森交流会

日 程：平成30年7月28日～7月29日

場 所：青森高校

参 加：青森高校、青森南高校、弘前高校、弘前南高校、田名部高校、八戸高校、
八戸聖ウルスラ学院高校の7校から生徒37名

即興型英語ディベート青森交流会は、各校の生徒たちが3人1組のチームとなり、設定されたテーマについて肯定、否定側に分かれて英語で討論することにより、英語によるディベートの手法に慣れるとともに、各校の交流を行うもの

普通科、理数科、スポーツ科学科、外国語科、表現科

■ 普通科 (普通科を設置する高校)

- 現代社会を巡る複雑な課題や地域社会の課題等に対応するために必要な資質・能力の育成に向け、各校の実情に応じた探究活動を推進

■ 理数科 (五所川原高校)

- 科学的能力や科学的思考力を育成するための特色ある教育活動を推進

■ スポーツ科学科 (青森北高校、弘前実業高校、八戸西高校)

- 豊かなスポーツライフを実現できる力を育成するための特色ある教育活動を推進

■ 外国語科 (青森南高校) ⇒ **グローバル探究科**に改編

- これまでの学習内容を発展的に見直し、外国語科を**グローバル探究科**に改編
- グローバル探究科では、**国際バカロレアの理念に基づき、語学力だけでなく、幅広い教養、課題を発見し解決する能力等を身に付けられる学習を充実**
- SDGsの実現等に着眼した**探究活動に国内外の学校等と協働しながら取り組むなど、特色ある教育活動を推進**

■ 表現科 (八戸東高校)

- 豊かな情操と創造性を育成するための特色ある教育活動を推進

(2) 職業教育を主とする専門学科※の充実 ※ 農業、工業、商業、水産、家庭、看護の各学科

各校の教育環境の充実

- 基礎的・基本的な知識・技能に加え、職業の多様化に対応できる資質・能力を育成
- 大学等との接続を視野に入れた取組や地域・企業等と連携・協力した取組を推進

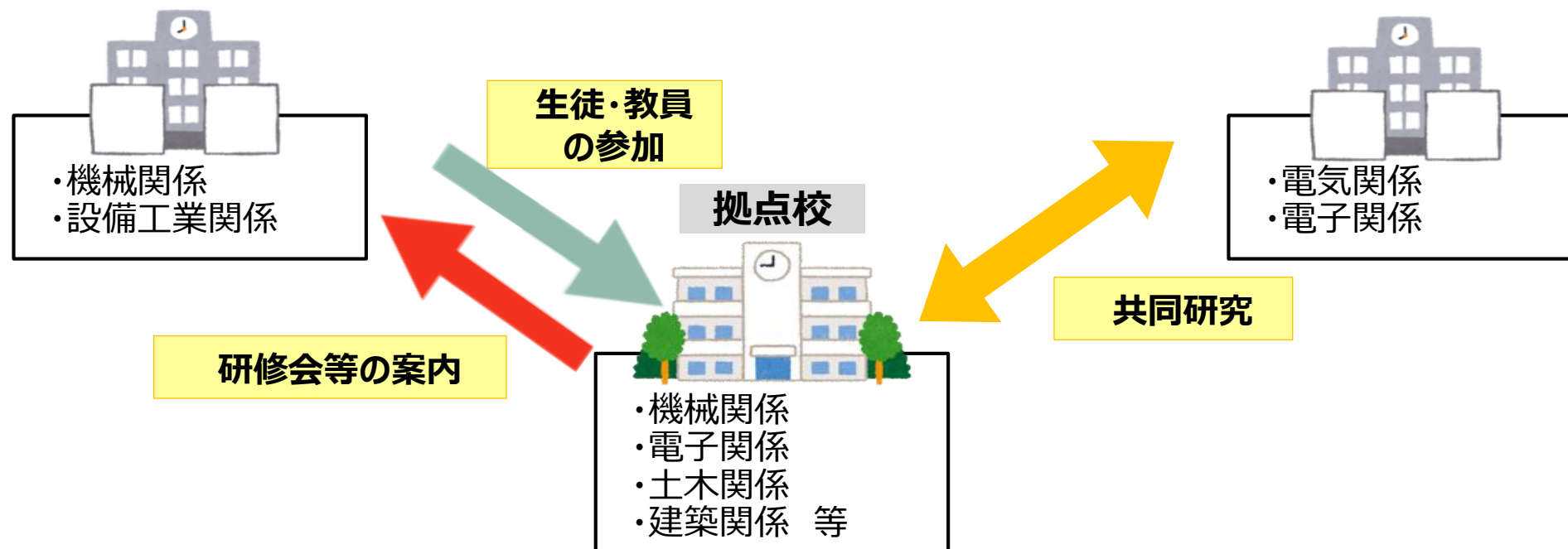
拠点校と各校の連携による取組

- 農業科・工業科・商業科において、**学習の拠点としての役割を担う高校を拠点校として配置し、**県全体の職業教育を主とする専門学科における教育の質を確保・向上
- 拠点校が実施する資格取得講習会等に各校の生徒が参加するとともに、各学科間の横断的な共同研究や学習成果の共有に向けた生徒同士の交流等の連携を推進
- 拠点校と各校の円滑な連携に向けた体制を整備

【拠点校の配置】

農業科	工業科	商業科
五所川原農林高校 三本木農業恵拓高校	青森工業高校 弘前工業高校 八戸工業高校	青森商業高校

【拠点校（工業科）における連携のイメージ】



【拠点校と各校との連携の例】

青森工業高校：2級ボイラー技士講習会の合同開催

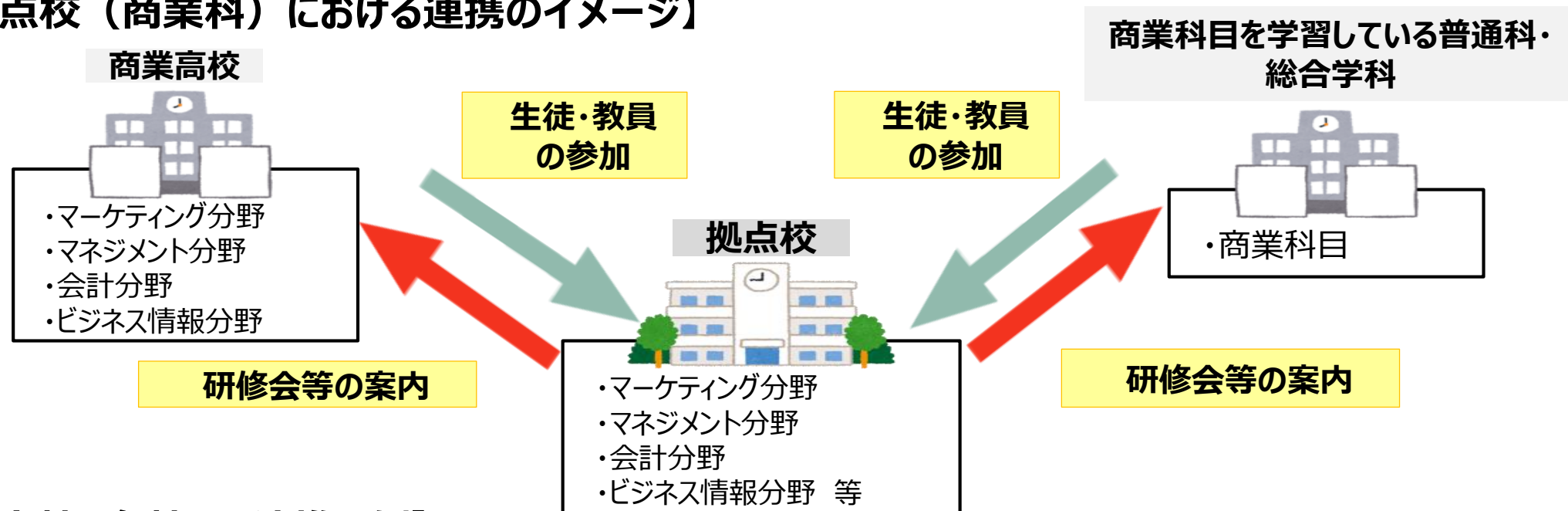
日 程：令和元年7月～8月（延べ7回）

場 所：県民福祉プラザ他

参 加：青森工業高校、むつ工業高校の2校から生徒19名

2級ボイラー技士講習会の合同開催は、外部講師による講義を通して、ボイラーの取扱いに必要なボイラーの構造、燃料及び燃焼等について理解を深めるとともに、関連法令に関する知識を身に付け、連携する高校と共に2級ボイラー技士の資格取得を目指すもの

【拠点校（商業科）における連携のイメージ】



【拠点校と各校との連携の例】

青森商業高校：県内IT企業による出前授業

日 程：令和2年6月上旬～3年2月下旬

場 所：商業科を設置する各校

参 加：青森商業高校、弘前実業高校、黒石商業高校、三沢商業高校、八戸商業高校の5校から生徒233名

県内IT企業による出前授業は、地元IT企業と各校が連携し、課題研究やビジネス情報分野に属する科目等における学習内容を深める講義や演習を行い、青森商業高校が各校の取組内容を取りまとめて情報共有することで、実践力を身に付けたIT人財の育成を目指すもの

【拠点校（農業科）における連携のイメージ】



【拠点校と各校との連携の例】

五所川原農林高校：グローバルGAP認証※取得支援

日程：令和2年8月4日

場所：柏木農業高校

参加：五所川原農林高校、柏木農業高校の2校から生徒21名

グローバルGAP認証取得支援は、認証に向けたノウハウを持っている五所川原農林高校の生徒が柏木農業高校を訪問し、取組状況の実践発表等の支援を行うことで、柏木農業高校が認証取得を目指すもの

※グローバルGAP認証：農作物が安全であることを示す国際認証規格

農業科

■ 農業科 (五所川原農林高校、柏木農業高校、三本木農業恵拓高校、名久井農業高校)

○ これからの農業に必要な資質・能力を育成するための特色ある教育活動を推進

・五所川原農林高校

- 森林科学科と環境土木科を統合して**環境科学科に改編**
- 環境科学科では、**森林の構造・機能・育成、農業土木、環境保全等に関する学習を充実**

・柏木農業高校

- 生活科学科を**生物生産科に統合**
- 生物生産科では、**農業生産や農業経営等に加え、地域資源の活用に関する学習を充実**

学校名	R 4	R 5～R 9
五所川原農林	生物生産	変更なし
	森林科学	環境科学
	環境土木	
	食品科学	変更なし
柏木農業	生物生産	生物生産
	生活科学	
	環境工学	変更なし
	食品科学	

工業科

■ **工業科** (青森工業高校、五所川原工科高校、弘前工業高校、十和田工業高校、
むつ工業高校 (下北地区統合校)、八戸工業高校)

○ 産業社会に求められる変化に対応できる資質・能力を育成するための特色ある教育活動を推進

・**むつ工業高校** (下北地区統合校)

- 電気科と設備・エネルギー科を統合して**電気・エネルギー科**に改編
- 電気・エネルギー科では、**発電や送電、電気配線工事、エネルギー等に関する学習を充実**

学校名	R 4	R 5～R 9
むつ工業 (下北地区統合校)	機 械	変更なし
	電 気	
	設備・ エネルギー	電気・ エネルギー

商業科、水産科、家庭科、看護科

■ 商業科 (青森商業高校、黒石高校、弘前実業高校、三沢商業高校、八戸商業高校)

- 経済社会の要請に対応できる資質・能力を育成するための特色ある教育活動を推進

■ 水産科 (八戸水産高校)

- 水産業を取り巻く状況変化に対応できる資質・能力を育成するための特色ある教育活動を推進
- 専攻科においては、専門性の高い実践的な教育活動を推進

■ 家庭科 (弘前実業高校、百石高校)

- 生活文化の変化に対応できる資質・能力を育成するための特色ある教育活動を推進

■ 看護科 (黒石高校)

- 医療を取り巻く社会環境の変化に対応できる資質・能力を育成するため、専攻科と一体となった5年間一貫した専門性の高い実践的な教育活動を推進

(3) 総合学科の充実

各校の教育環境の充実 (青森中央高校、木造高校、七戸高校、大湊高校 (下北地区統合校))

- 自身の個性を発見させるとともに、自己の在り方・生き方を考察させることにより、将来を見据えた主体的な系列選択を促進
- 外部講師の積極的な活用や、各系列の連携による教育活動等を進め、生徒の幅広い進路志望に対応
- 生徒数の減少や生徒の学習ニーズに対応するため、地域の実情等を踏まえながら系列の在り方について各校と検討・見直し

(4) 多様な教育制度の充実

併設型中高一貫教育 (三本木高校・三本木高校附属中学校)

- 高校と附属中学校の教員の交流による双方の授業改善
- 6年間を見通した計画的・継続的な教育活動の更なる充実
- 異年齢交流を通して、社会性や豊かな人間性を育成

全日制普通科単位制 (青森東高校、弘前南高校、田名部高校、八戸北高校)

- 幅広い選択科目や学校設定科目を開設するとともに、少人数できめ細かな指導等の指導体制の工夫・改善により個に応じた指導を充実
- 学校外の学修や体験活動等における成果の単位認定を通して、生徒の学習意欲を向上

総合選択制 (弘前実業高校)

- 所属する学科の科目に加え、他学科の科目を学習することを通して、幅広い知識や柔軟な発想を身に付けられる取組を充実
- 異なる専門性や価値観を有する各学科の生徒が学び合うことにより、新たな価値を創出するために必要な力を養成

3 定時制課程・通信制課程

定時制課程の充実 (北斗高校、五所川原高校、尾上総合高校、三沢高校、田名部高校、八戸中央高校)

- 様々な事情を抱える生徒に対応するため、家庭・地域等と連携しながら、生徒一人一人に寄り添った指導や支援を実施
- スクールライフサポーター等、**専門スタッフによるよりきめ細かな支援体制を整備**

通信制課程の充実 (北斗高校、尾上総合高校、八戸中央高校)

- 生徒の多様な学習ニーズ等に対応できるよう、**ICTを活用することにより、時間や場所の制約を超えて学習・相談できる体制を構築**
- 高校入学後の進路変更を希望する生徒に対し、**後期入学や年度中途からの転入学・編入学の実施**を通して、幅広く学びの機会を提供

1 県立高校教育改革の背景

2 青森県立高等学校教育改革推進計画 第2期実施計画(案)

第1 第2期実施計画策定の経緯

第2 学校・学科の充実

第3 学校規模・配置

第4 魅力ある高校づくり

第5 県民の理解と協力の下での県立高校教育改革の推進

3 今後のスケジュール

計画的な学校規模・配置に当たっての観点

高校教育を受ける
機会の確保

【各地区における中学生の進路の選択肢の確保】

幅広い進路選択に
対応する高校

選抜性の高い大学への
進学に対応する高校

実践的な職業教育に
対応する高校

【通学環境への配慮】

地理的な要因から高校への通学が困難な地域が新たに生じないように配慮

充実した
教育環境の整備

《学校規模の標準》

(基本となる学校)

1 学年当たり 4 学級 (160人) 以上

(普通科等の重点校)

1 学年当たり 6 学級 (240人) 以上

(職業教育を主とする専門学科の拠点校)

一つの専門学科で

1 学年当たり 4 学級 (160人) 以上

◆一定の学校規模を維持することにより、本県高校教育全体の質の確保・向上

※

※ 1 学年当たり 4 学級 (160人) … 1 学級の定員を 35 人とする学級編制の弾力化を実施している学校にあっては 140 人以上

学校規模による科目の開設状況の違い

学校規模	社会科平均開設科目数	理科平均開設科目数
1 学級規模	5. 0 科目	5. 0 科目
2 ~ 3 学級規模	5. 2 科目	6. 2 科目
4 ~ 5 学級規模	7. 5 科目	8. 5 科目
6 ~ 7 学級規模	9. 0 科目	9. 2 科目

学校規模が大きくなるほど、**社会科や理科において幅広い科目を開設**することができる

学校規模による部活動設置状況の違い

学校規模	運動部活動数平均	文化部活動数平均
1 学級規模	5. 5部	4. 0部
2～3 学級規模	6. 7部	4. 5部
4～5 学級規模	13. 5部	10. 0部
6～7 学級規模	14. 8部	11. 2部

学校規模が大きくなるほど、運動部・文化部ともに**部活動の設置数を増やす**ことができる

学校配置の考え方

- ① 学校規模の標準を踏まえ、6地区ごとに中学校卒業生数の推移、中学生のニーズ等に対応した**計画的な学校配置**
- ② 生徒にとって**必要な学科の選択肢を確保**するため、異なる学科の高校の統合による**複数の学科を有する高校の設置**を検討
- ③ **公共交通機関の利便性等**を考慮
- ④ **重点校を各地区に配置し、農業科・工業科・商業科の拠点校を全県的なバランスを考慮して配置**
- ⑤ 学校規模の標準を満たさない高校のうち、**募集停止等により高校への通学が困難な地域が新たに生じることとなる高校**については、**地域における通学状況を考慮した上で地域校として配置**

地域校への対応

【地域校の配置】

地区	東青	西北	中南	上北	下北	三八
地域校	—	鱒ヶ沢高校	—	六ヶ所高校	大間高校	三戸高校

【基本方針に定める基準等】

〈2学級規模の地域校〉

- 40人以下の状態が2年間継続した場合、原則として翌年度に1学級規模として配置

〈1学級規模の地域校〉

- 募集人員に対する入学者数の割合が2年間継続して2分の1未満（20人未満）となった場合、翌年度の募集停止を基本とし、当該高校の所在する市町村等と協議

【地域校の活性化に向けた対応】

- 地域校の活性化に向け、学校関係者と市町村関係者等で構成する地域校活性化協議会（仮称）における協議結果等を踏まえ、地域等と連携・協力しながら、学校と地域等が一体となって教育環境の充実に資する取組を実施

東青地区における中学校卒業生数・募集学級数の推移（見込み）

(単位：人・学級)

	第1期	第2期実施計画					R10~R14
	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R14
中学校 卒業生数	2,492	2,487	2,348	2,263	2,319	2,216	1,942
前年比較	-	△5	△139	△85	56	△103	-
期間内増減	△430	△276					△274
募集学級数	46	42					37
期間内増減	△8	△4					△5

地区意見交換会の委員の意見に基づく学校配置シミュレーション

- ア 全ての学校を配置する場合
- イ 東青地区の重点校を青森高校、青森東高校として配置する場合
- ウ 青森西高校と浪岡高校を統合して新設校を配置する場合
- エ 青森北高校と浪岡高校を統合して新設校を配置する場合

東青地区における学校規模・配置①

重点校・拠点校について

- 以下のとおり、重点校・拠点校を配置

重点校	工業科の拠点校	商業科の拠点校
青森高校	青森工業高校	青森商業高校

学級減について

- 地区の普通科等、職業教育を主とする専門学科、総合学科の選択肢を確保するとともに、中学校卒業生数、志願・入学状況等を考慮し、学校規模の標準を踏まえ、以下の学校において学級減を実施

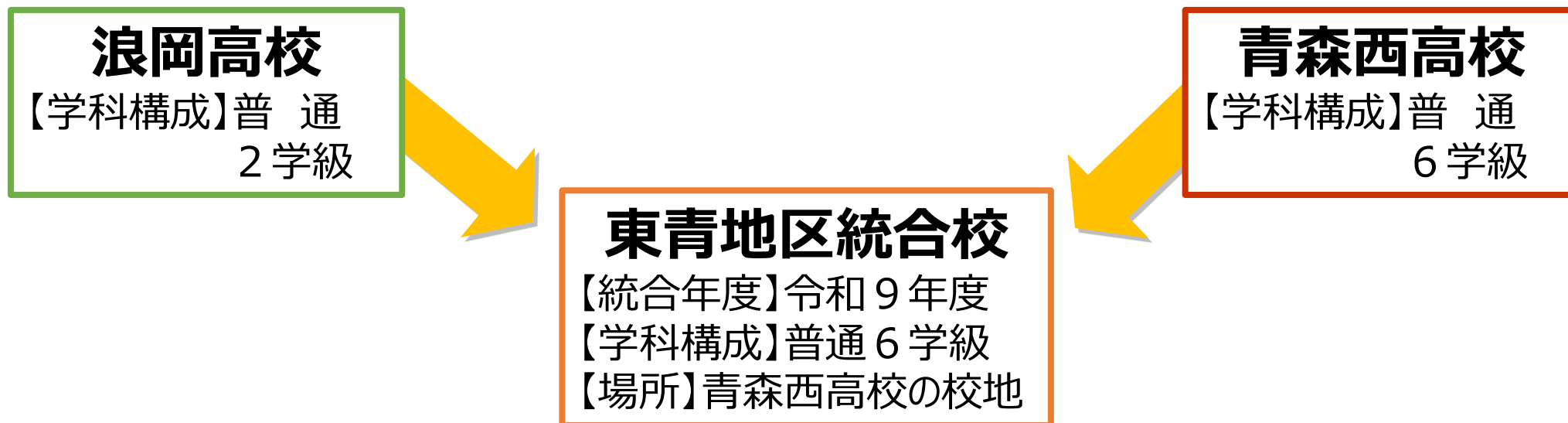
(単位：学級)

学校・学科	年度・学級数等	第1期	第2期実施計画	
		R4	R5～R9	期間内増減
青森南高校	普通	4	3	△1
青森中央高校	総合	5	4	△1

東青地区における学校規模・配置②

統合について

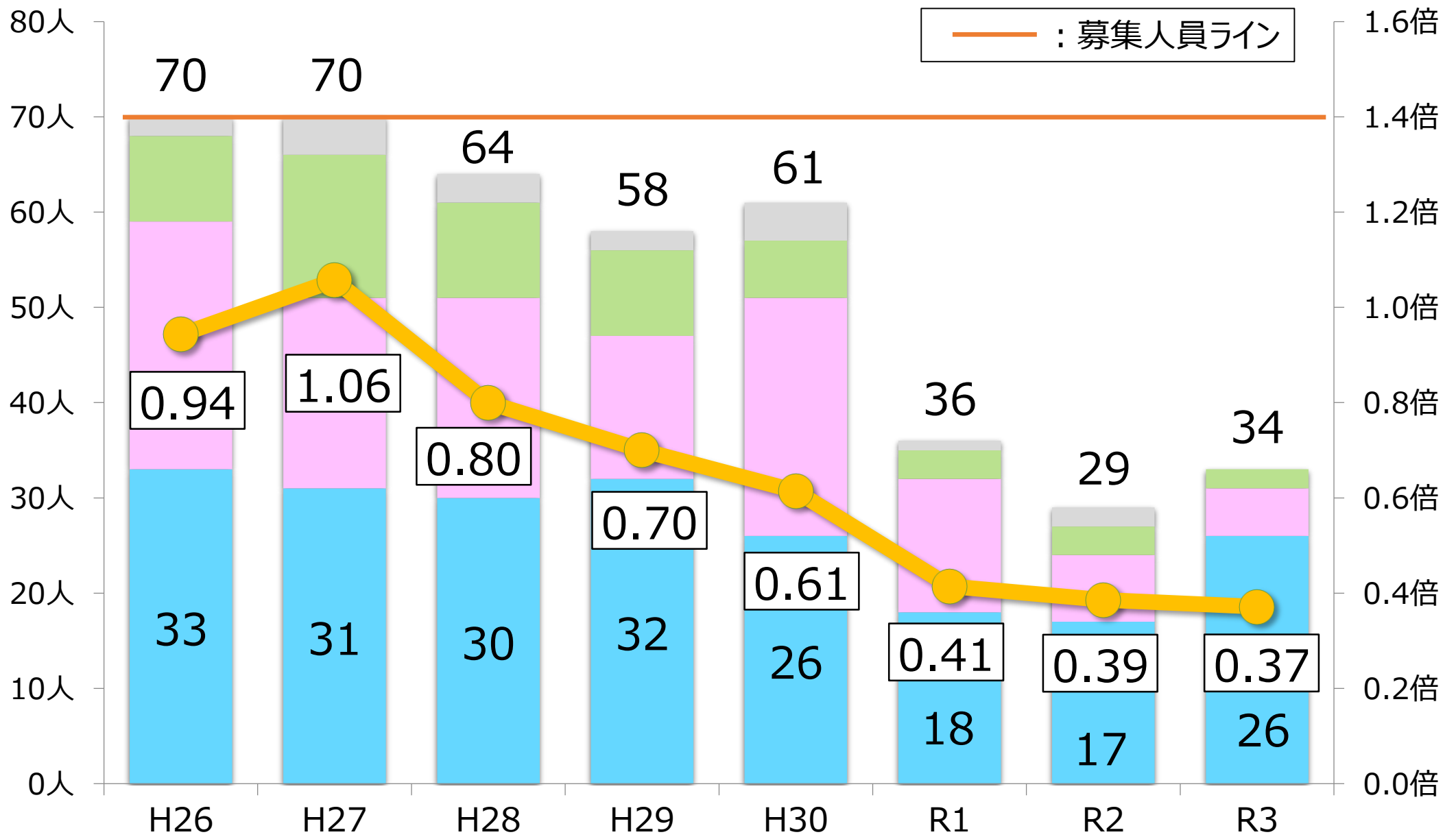
- 地区の学校配置の状況や志願・入学状況、通学環境等を踏まえ、以下のとおり、青森西高校と浪岡高校を統合



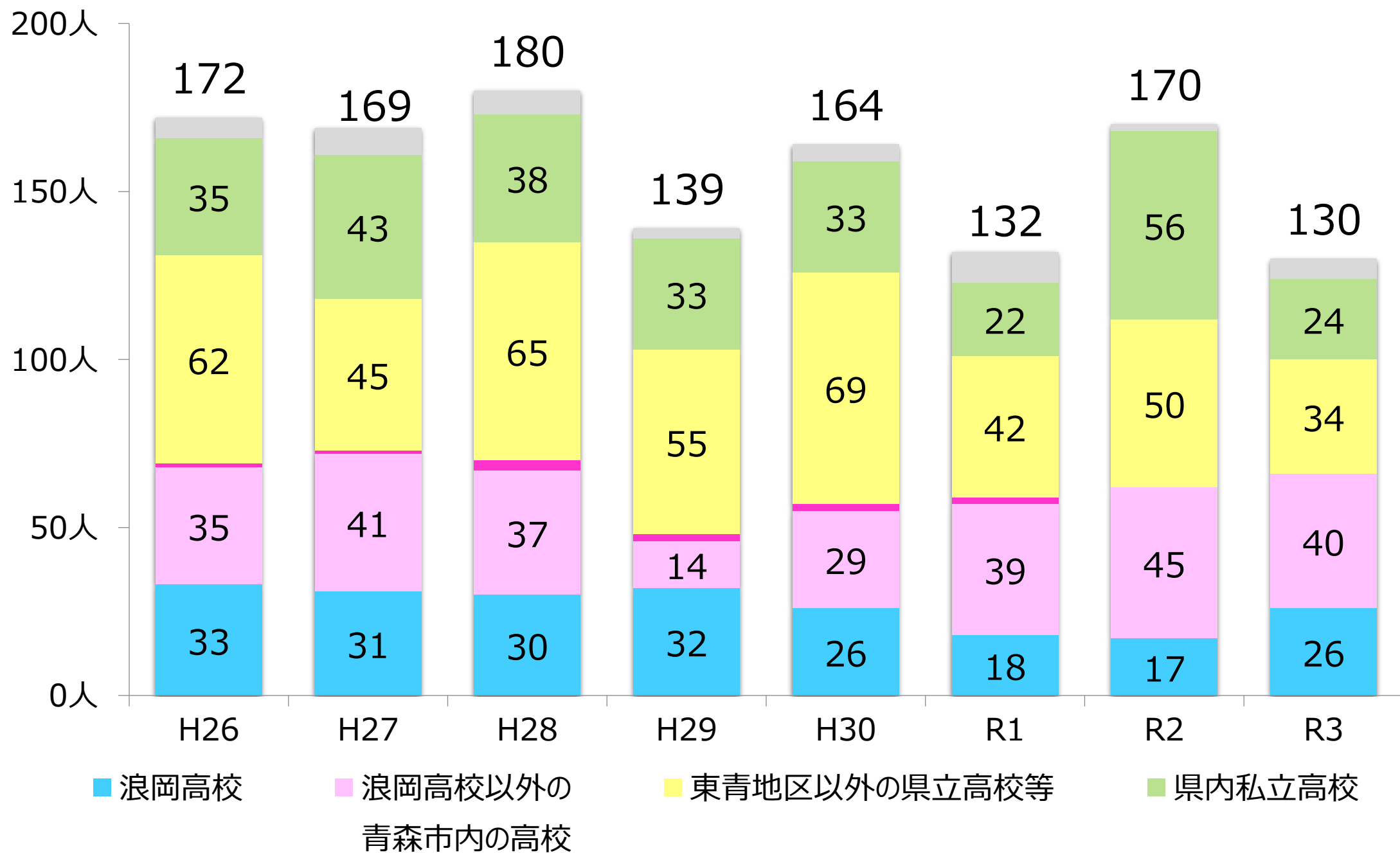
【統合校が目指す姿】

- 生徒の個性や能力を伸ばし、大学等への進学や就職等、生徒一人一人の幅広い進路志望の実現に寄与する高校
- 地域と連携・協働した探究的な学びを通して、生徒の地域社会の発展に貢献する意識を醸成する高校

浪岡高校の志願・入学状況 (募集人員：70人)



浪岡中学校卒業者の進路状況



統合校の教育活動について

浪岡高校の特色ある教育活動

- 進学を目指す教養コースと就職を目指す商業実務コースを設置し幅広い進路に対応
- 空き缶壁画活動・浪岡北畠まつりなどの活動を通して地域社会の発展に貢献する人財育成

青森西高校の特色ある教育活動

- 学業と部活動の両立を図り、人間的に成長する教育を推進
- ボランティア活動・青西おもてなし隊活動等の体験的活動を通して人間力を育成

【東青地区統合校の教育活動の例】

- 生徒一人一人の学習ニーズに応じたきめ細かな指導や、社会的・職業的自立に向けた系統的なキャリア教育を推進
- 地域行事への積極的な参加等、地域の歴史・文化に対する理解や愛着を深める教育活動を推進
- 地域資源を活用したボランティア活動等、社会に積極的に関わり、地域の魅力を国内外に発信する教育活動を推進

統合に当たっての留意事項

- 統合の対象となる学校に令和8年度までに入学した生徒は、統合後も入学した学校で学び、卒業することを基本
- 統合の対象となる学校の適正な教職員配置、特別活動等の生徒の活動の場を確保
- 開設準備委員会を設置し、校名、目指す人財像、特色ある教育活動等について協議
- 統合校の教育課程の編成等、開校に向けた準備を進めるため、開設準備室を設置
- 統合の対象となる学校の卒業生に係る卒業証明書等の発行や指導要録、沿革に係る資料の保存・管理等は、統合校が引継ぎ

【統合の実施年度】

	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10
東青地区統合校			開設準備		募集開始 (1年生在籍)	(1,2年生在籍)
【統合対象校】 青森西高校			開設準備 委員会	開設準備室 (青森西)	募集停止 (2,3年生在籍)	R10年度末閉校 (3年生在籍)
【統合対象校】 浪岡高校					募集停止 (2,3年生在籍)	R10年度末閉校 (3年生在籍)

東青地区における各校の学校規模 (P17)

(単位：学級)

学校・学科		年度・学級数等	第1期	第2期実施計画		備 考
			R 4	R 5～R 9	期間内増減	
青 森	普 通		6	6		・重点校
東青地区統合校	普 通		—	6	+ 6	・R 9 募集開始
青森西	普 通		6	0	△ 6	・R 9 募集停止 ・R 10年度末閉校
浪 岡	普 通		2	0	△ 2	
青森東	普 通		6	6		
青森北	普 通		4	4		
	スポーツ科学		1	1		
青森南	普 通		4	3	△ 1	・外国語科をグローバル探究科に改編
	グローバル探究		—	1	+ 1	
	外国語		1	0	△ 1	
青森中央	総 合		5	4	△ 1	
青森工業	機 械		1	1		・拠点校
	電 気		1	1		
	電 子		1	1		
	情報技術		1	1		
	建 築		1	1		
	都市環境		1	1		
青森商業	商 業		4	4		・拠点校
	情報処理		1	1		
地区計			4 6	4 2	△ 4	

中南地区における各校の学校規模(P20)

(単位：学級)

学校・学科		年度・学級数等	第1期	第2期実施計画		備 考
			R 4	R 5～R 9	期間内増減	
弘 前	普 通		6	6		・重点校
弘前中央	普 通		6	5	△ 1	
弘前南	普 通		6	5	△ 1	
黒 石	普 通		3	3		
	情報デザイン		1	1		
	看 護		1	1		
柏木農業	生物生産		1	1		・生活科学科を生物生産科に統合
	環境工学		1	1		
	食品科学		1	1		
	生活科学		1	0	△ 1	
弘前工業	機 械		1	1		・拠点校
	電 気		1	1		
	電 子		1	1		
	情報技術		1	1		
	土 木		1	1		
	建 築		1	1		
弘前実業	商 業		2	2		
	情報処理		1	1		
	家庭科学		1	1		
	服飾デザイン		1	1		
	スポーツ科学		1	1		

1 県立高校教育改革の背景

2 青森県立高等学校教育改革推進計画 第2期実施計画(案)

第1 第2期実施計画策定の経緯

第2 学校・学科の充実

第3 学校規模・配置

第4 魅力ある高校づくり

第5 県民の理解と協力の下での県立高校教育改革の推進

3 今後のスケジュール

1 学校・家庭・地域等との連携の推進

各校種等との連携の推進

- 生徒の進路志望等の多様化や小規模校における課題に対応するため、教員研修や学校行事等において、各校が相互に連携・協力した取組等を推進
- 小・中学校と連携し、高校の学びに触れる機会の提供や各発達段階に応じた教育活動を充実
- **国内外の高校や大学等と連携した共同事業体（コンソーシアム）の構築等**により、グローバルな社会課題に係る探究活動や大学レベルの教育・研究に取り組むなど、生徒の進路志望に応じた高度な学びを提供

家庭・地域等との連携の推進

- 社会に開かれた教育課程の理念の下、学校・家庭・地域が一体となり、生徒一人一人にこれからの時代に求められる力を育成
- **コミュニティ・スクール**導入校における成果や課題の検証を踏まえ、**他校においても段階的な取組を実施**
- 総合的な探究の時間や学校設定科目等において、地域への理解を深める学習である「**あおもり創造学**」を進め、「ふるさとあおもり」への愛着や誇り、夢を抱き未来に向かって挑戦する意欲を醸成

2 教育活動の充実に向けた取組

各校に関する情報発信の充実

- 中学生の進路選択等に資するよう、**各校の特色を生かした魅力ある教育活動等について**、様々な広報媒体を活用しながら、**情報発信を充実**

特別な支援を必要とする生徒等への対応

- 校内研修の充実や特別支援学校と連携した教員研修等の推進による生徒の実情に応じた支援
- 北斗高校、尾上総合高校、八戸中央高校の定時制課程において実施している**通級による指導**の成果を踏まえ、**他校への拡充等を検討**
- **専門スタッフによるよりきめ細かな支援体制の整備等**により、様々な事情を抱えた生徒へ対応
- 不登校の生徒等に対する支援として、ICTを活用した学習活動等を実施

ICTの活用による教育活動の充実

- 生徒一人一人に情報活用能力を育成するため充実したICT環境を提供
- 学習場面に応じて効果的に**ICTを取り入れた授業づくり**を推進
- ICTの特性を生かした教育活動の展開に向けた実践的な教員研修を充実

施設・設備の充実

- 老朽化の解消等により**安全・安心な教育環境を確保**
- 特色ある教育活動等に向けた計画的な施設・設備の整備

全国からの生徒募集の導入 (目的・導入校の決定方法)

【目的】

県外から目標を持った生徒を受け入れ、近年、入学者数が募集人員に満たない高校の活性化を進めるため、高校が所在する市町村の意向等を踏まえながら全国からの生徒募集を導入

【導入校の決定方法】

以下のいずれかに該当する高校 (候補校) のうち、高校が所在する市町村から支援を前提とする申し出があった高校について、県教育委員会と市町村が協議した上で導入校として決定

【候補校】

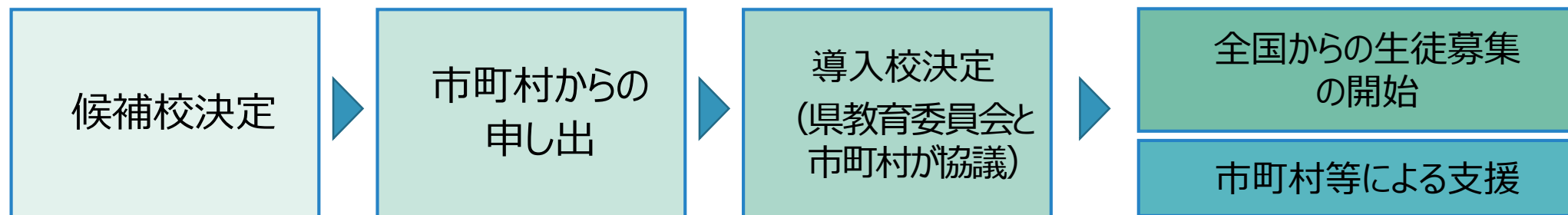
① 第2期実施計画において地域校とする高校

(鰯ヶ沢高校、六ヶ所高校、大間高校、三戸高校)

② 過去5年の定員充足率の平均が90%以下の高校 (第2期実施計画における統合対象校を除く)

(柏木農業高校、野辺地高校、七戸高校、名久井農業高校)

全国からの生徒募集の導入（開始までの流れ）



- 全国からの生徒募集は**令和5年度入学者選抜からの導入**（令和5年度から県外生徒受入れ）を**基本**
- 県外生徒の生活環境の確保等の準備期間を要する導入校については令和6年度入学者選抜から導入

1 県立高校教育改革の背景

2 青森県立高等学校教育改革推進計画 第2期実施計画(案)

第1 第2期実施計画策定の経緯

第2 学校・学科の充実

第3 学校規模・配置

第4 魅力ある高校づくり

第5 県民の理解と協力の下での県立高校教育改革の推進

3 今後のスケジュール

教育環境の充実を図り、人口減少克服に向けて生徒一人一人に郷土を愛する心を育むため、学校と地域等が一体となり、県全体が一丸となって高校生を育てる教育に取り組むとともに、次のような取組を進めるなど、県民の理解と協力の下で県立高校教育改革を推進

1 青森県立高等学校教育改革推進計画の進捗管理

- 高校教育を巡る環境の変化や中学校卒業生数の見込み、生徒の志願・入学状況等を確認の上、第2期実施計画の取組状況について検証し、必要に応じて実施計画を見直し

2 次期実施計画の策定

- 令和10年度以降を計画期間とする次期実施計画の策定に当たっては、県民の皆様からご意見を伺う機会を設けながら、新たな時代を主体的に切り拓く子どもたちを育むための高校教育の在り方を検討

- 1 県立高校教育改革の背景
- 2 青森県立高校教育改革推進計画第2期実施計画(案)
 - 第1 第2期実施計画策定の経緯
 - 第2 学校・学科の充実
 - 第3 学校規模・配置
 - 第4 魅力ある高校づくり
 - 第5 県民の理解と協力の下での県立高校教育改革の推進
- 3 今後のスケジュール

第2期実施計画（案）公表
（令和3年7月）



第2期実施計画 決定
（令和3年11月以降予定）



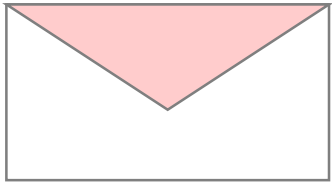
第2期実施計画開始
（令和5年度～）

・県民の意見

パブリック・コメント
地区懇談会

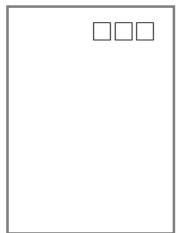


第2期実施計画（案）に関する意見について



これから高校に入学するお子さんたちに直接かかわることです。
ぜひ、皆様のご意見をお聞かせください！

【メール】E-KAIKAKU@pref.aomori.lg.jp




【郵便】〒030-8540 青森市長島1-1-1
青森県教育庁高等学校教育改革推進室

【FAX】017-734-8003

詳しくは、検索

青森県立高等学校教育改革

検索 



【ホームページ】 <https://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/kenritukoutougakkoukyouikukaikaku.html>

東青地区懇談会（7月19日）における意見等

※区分ごとに整理しているため、発言順となっていない場合があります。

No	区分	意見・提案の内容	7月19日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
1	統合	第2期実施計画（案）で浪岡高校の閉校が示されたが、地域のまちづくりに逆行するため、我々としては到底受け入れられない。三村県政も、人口減少に伴う地域の活力衰退に対し、非常に懸念されていると思うが、教育環境等の整備と地域振興は一体で考えるべきだと考える。学校経営の効率化を追求するといった一方的な考え方は改めてほしい。地域の経済活力に高校の存在がどれだけ大きいかということとは、誰しも御承知のはずだと思う。	まちづくりと教育の両立というのは、非常に難しい部分があります。県教育委員会としては、資料1の25ページにあるとおり、充実した教育環境の整備として、生徒数が減少していく中であっても、各高校において生徒一人一人がこれからの時代に求められる力を身に付けるため、一定の学校規模を維持することにより、本県高校教育全体の質の確保、向上を図るという基本方針の下で、子どもたちのためにある程度の学校規模を維持し、勉強や部活動に励めるような環境を提供したいと考えております。	県教育委員会では、「青森県基本計画「選ばれる青森」への挑戦」の教育関連部分を「青森県教育振興基本計画（R1～R5）」として位置付けており、県立高校教育改革についても、県の基本計画と整合を図りながら策定・推進してきたところです。 県では、人口減少が進む中であっても地方創生を実現するため、各種施策に取り組んでいるところであり、この「地方創生」の原動力となるのが人財であると捉え、青森県立高等学校教育改革推進計画では、社会の急速な変化や生徒数の更なる減少等を踏まえながら、本県の生徒一人一人に、これからの時代に求められる力を育むこととしております。 「青森県基本計画「選ばれる青森」への挑戦」においては、教育・人づくり分野で「青森県の未来を切り拓く人財の育成と活躍促進」を掲げており、県立高校教育改革と方向性は同じであると認識しております。
2	統合	第1期実施計画では、地域校のほかに9市町村の高校を閉校して、青森市、弘前市、八戸市、五所川原市、むつ市の都市部に集約している。結果として、都市部以外の地域で若者や学生の声が聞けなくなり、まちづくりに逆行する形になっていると思う。三村知事をはじめ、県の方針では地域再生や地域活性化を掲げているが、学生は都市部だけに集めて地域の核となる高校をなくすことは矛盾しているのではないか。	学校配置の検討に当たっては、充実した教育環境の整備と地域の実情への配慮という2つの観点に意を用いることとしており、ある程度の学校規模を維持した形での配置を基本としつつ、通学が困難な地域への対応として、鱒ヶ沢高校、大間高校、六ヶ所高校及び三戸高校を地域校として配置したところです。県教育委員会としては、これら2つの観点のバランスを図りながら第1期実施計画に引き続き、第2期実施計画を策定し、取り組んでいきたいと考えております。	
3	統合	地区意見交換会では、青森西高校と浪岡高校を統合する場合と、青森北高校と浪岡高校を統合する場合の意見があったと思うが、市内中心部に半径3キロから5キロの近い距離にある青森北高校と青森西高校について、同じ男女共学の普通高校を2つ残すという明確な理由があるのか疑問に思う。		東青地区の学校配置の検討に当たっては、地区内の中学生のニーズを考慮するとともに、第1期実施計画では青森北高校今別校舎を募集停止したところであり、上磯地域の生徒の通学へ配慮した学校配置が必要と考えております。 なお、青森北高校は、地区内で唯一スポーツ科学科が設置され、文武両道に励みながら社会の発展に寄与し得る、実践力に富む個性豊かな人間の育成を目指しております。また、青森西高校は「高校生おもてなしプロジェクト」、「青森セレクトプロジェクト」など体験的なボランティア活動を通して、生徒の地域に参画する意識の醸成や人間力・社会力の育成を目指しております。両校ともにそれぞれ特色を打ち出しながら、一定の生徒数が入学している状況にあります。

No	区分	意見・提案の内容	7月19日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
4	統合	<p>第1期実施計画では、歴史的価値や文化的価値を知る生徒を育成する教育を進めるという方針が確かにあったと記憶している。浪岡地域は中世時代に北畠氏が開いた地域であり、歴史的に後醍醐天皇、根城南部藩の殿様、それから足利幕府を開いた足利尊氏や織田信長も御縁がある。そのような価値のある地域の歴史を浪岡高校では授業に取り入れている。</p> <p>また、文化・スポーツ関係においても、あすなろ国体以前から浪岡地域はバドミントンで有名であり、浪岡高校には全国からバドミントンで有名な選手になりたいという生徒が目指して来ている。昔から浪岡地域は、住民が浪岡高校を愛し、応援しながら、そしてそれをまちづくりにつなげて、コミュニティができてきている。これらのことから、浪岡高校は、青森北高校や青森西高校と比べても何ら見劣りしない高校だと思う。将来的に見ても、浪岡高校を残した方が青森市、青森県にとっては良い結果が残されるのではないかと考えており、是非もう一度再考をお願いしたい。</p>	<p>浪岡高校については、先般90周年を迎えた歴史ある高校であり、これまで歴史ある浪岡地域の中で教育活動を行っていること、青森北高校、青森西高校と比べても見劣りしないということは、そのとおりであると考えており、御意見として承ります。</p>	<p>基本方針では、大学等への進学や就職等により幅広い進路選択に対応できる教科・科目を開設するとともに、学校行事をはじめとする特別活動等の充実や多様な部活動の選択肢を確保することにより、高校段階で身に付けるべき「確かな学力」、「逞しい心」や学校から社会への円滑な移行に必要な力等を育成することができるよう、基本となる学校について1学級当たり4学級を標準としております。</p> <p>東青地区では、中学校卒業生数の更なる減少が見込まれる中、現在2学級規模の浪岡高校について、近年の入学人数が1学級規模にも満たない状況が続いております。</p> <p>また、浪岡地域から鉄道を利用して20分で通学が可能であることや浪岡中学校卒業生の進学動向等を踏まえ、生徒の進路志望に応じた多様な学びを提供するとともに、多くの生徒の中で多様な価値観に触れながら成長できるよう、浪岡高校と青森西高校を統合し、充実した教育環境を整備することとしたものです。</p> <p>浪岡高校では、空き缶壁画の制作や浪岡北畠まつりへの参加、インターンシップの実施など地域の協力を得ながら教育活動を展開し、地域の発展に寄与する人材の育成に取り組んできたところであり、統合校の開設に当たっては、開校2年前に統合対象校の校長、外郭団体代表、青森市教育委員会教育長等で構成する開設準備委員会を開催し、統合対象校において実施してきた教育内容の引き継ぎや統合校の教育活動を含めた方向性について検討することとしております。</p> <p>県教育委員会としては、第2期実施計画の決定に向け、地区懇談会やパブリック・コメント等を通じた御意見の一つ一つについて、教育委員へ報告するとともに、教育委員会会議での検討を経て決定することとしており、御意見として承ります。</p>
5	統合	<p>県教育委員会は、高校再編に当たり長期的な戦略で年次計画を設計していないのではないかと。第2期実施計画（案）で、例えば3校ないし2校を統合した後、3年後、5年後にはまた統廃合を粛々行うことが、果たして、血の通った教育を担っている県教育委員会として正しいのか。浪岡高校の生徒は、小規模ではあるが、北畠氏を軸とする浪岡地域の歴史を学び、様々な体験をして活発に学習をしている。その場を奪うことは、我々浪岡地域としても非常に信じ難いことである。</p> <p>先ほどから、事務局から「持ち帰る」と言われているが、この場だけで済ませるといことはあつてはならないことであり、その点を強く胸に刻んで、もう一度考え直してほしい。</p>		<p>県教育委員会としては、第2期実施計画の決定に向け、地区懇談会やパブリック・コメント等を通じた御意見の一つ一つについて、教育委員へ報告するとともに、教育委員会会議での検討を経て決定することとしており、御意見として承ります。</p>
6	統合	<p>青森市や我々地域住民と連携・協働した教育環境をつくり、子どもたちの将来のために、どのような高校とすべきか考えることが大切であり、この作業を経て、浪岡高校を存続できるよう再検討を求めものである。</p>		

No	区分	意見・提案の内容	7月19日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
7	統合	<p>浪岡高校から商業科が廃止された時期を伺いたい。商業科がなくなって大分時間がたったが、最近浪岡高校ではバドミントンで全国大会にも出場し、地域に貢献して勇気を与えている。</p> <p>また、浪岡高校の商業科について、なぜ黒石商業高校へ統合したのかという点も念頭に置いて、7月30日の地区懇談会で回答してほしい。</p>	<p>商業科は平成25年4月に募集停止になっております。</p>	<p>第3次実施計画（前期）において、普通高校に併設された1学級規模の商業科は、地区内の単独校へ集約することとし、平成24年度に百石高校商業科及び三戸高校商業科を、平成25年度に浪岡高校商業科をそれぞれ募集停止したところです。</p> <p>このため、浪岡高校商業科については、青森商業高校へ集約したところです。</p> <p>なお、現在、浪岡高校では商業実務コースを設置しております。</p>
8	統合	<p>北畠まつりを浪岡高校が強力に応援しており、浪岡高校がなくなれば祭りの実施が困難となる状況でもある。そして、浪岡高校では、空き缶壁画という全国に例のないほどすばらしいものを造り上げている。これらのことを考えると、簡単に生徒数の減少という論理で片づけて良いのかと思う。少人数だからこそ良い根性や負けてなるかという精神が生まれてくるのだと思う。あえて言えば、小さな村ほど神社仏閣を大事にしており、立派な正月のしめ縄を作っていることもあるため、一概に浪岡高校をなくすことが、我々は忍びなくて仕方がない。浪岡高校を青森西高校へ統合する形ではなく、青森西高校を浪岡高校へ統合すれば良い。高校と一緒に浪岡地域を活性化させるような環境の整備を県教育委員会にお願いしたい。閉校はやめるべきだと強く思っている。</p>	<p>浪岡高校は、これまで90年以上にわたって、地域の皆さんからこのように熱い思いをいただき、学校教育活動が進められていることを十分承知しております。青森西高校を浪岡高校へ統合すれば良いという御提案については、持ち帰って教育委員に報告します。</p>	<p>統合対象校としては、浪岡地域からの通学の利便性や浪岡中学校卒業者の進学動向等を考慮し、青森西高校としたものであり、両校の現在の入学者数の状況等を踏まえ、青森西高校の校舎を使用することとしたものです。</p>

No	区分	意見・提案の内容	7月19日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
9	統合	青森西高校を昔から歴史ある浪岡地域にある浪岡高校へ統合し校名を浪岡高校に変え、活性化を図るということも一つの案だと考える。教育長に進言してほしい。	ただ今の御提案については、持ち帰って御意見として承ります。	統合対象校としては、浪岡地域からの通学の利便性や浪岡中学校卒業者の進学動向等を考慮し、青森西高校としたものであり、両校の現在の入学者数の状況等を踏まえ、青森西高校の校舎を使用することとしたものです。 なお、校名については、両校関係者等による統合校開設準備委員会において検討することとしております。
10	統合	青森西高校と浪岡高校が仮に統合したときに、どのような特色のある高校にしたいのかが全然見えない。現在、浪岡地域の住民は、地域に協力し、浪岡地域の人間として浪岡高校の生徒がいる。浪岡高校の生徒が青森西高校へ行ったときに、そのような思いで高校生活を送れるのか。このような状況にしたのは政治家である。少子化対策として、1家族に5万円でも補助するようなシステムを作っていれば、このような事態は回避できたのではないか。 県教育委員会では、浪岡高校を青森西高校へ統合しようとしているが、浪岡高校の方が先に歴史、文化など様々なものを継承してきている。どのような意見から統合案が出されているのか分からないが、県教育委員会では実情を分かっているのか。「持ち帰って検討する」と言うばかりでは、議論が進まない。	統合校がどのような高校を目指しているのかということについては、スライドの35ページにもあるとおり、キャリア教育推進として、地域行事へ積極的に参加する、また、その地域の歴史や文化に対する理解・愛着を深める教育活動を推進しながら、ボランティア活動等、社会に積極的に関わる教育活動等を展開したいと考えております。統合校の教育内容については、これから統合校開設準備委員会や統合校開設準備室での検討となりますが、県教育委員会としては、両校でボランティア活動等に一生懸命取り組んでいるという点で親和性が高いと考えており、これらの教育活動を引き継ぎながら更に推進していきたいと考えております。	

No	区分	意見・提案の内容	7月19日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
11	統合	<p>今までも閉校になった高校はあると思うが、閉校になった高校の所在していた地域ではどのような弊害や影響が出ているのか。その地域の経済的な状況や地域の祭り、イベントなど様々なことを含めて、どのような影響があったのか分かれば良いと思う。浪岡高校が仮に閉校となった場合、県として浪岡地域ではどのような影響が出ると考えているのか聞きたい。</p> <p>地域住民としては、その点も考えてほしいと思う。県教育委員会が、ただの数字合わせで学校を統合したとしても、その後にも地域は残り、住民、そして将来を担う子どもたちもいる。これからも統合はあるのだろうが、その後になくなるのか考えて実施すべきだと思うので、今まで閉校となった地域がどうなったのか検証し、次回にでも教えてほしい。県が統合を進めたのだから、最後まで責任を持つべきだと思うので、是非検証して結果も教えてほしい。</p>	<p>閉校により、その地域ではどのような影響が出るのかについて、県教育委員会としては、募集停止等になった高校で行ってきた教育活動や伝統については、関係者と協議の上、円滑に引き継ぎを行うこととしているところですが、経済的な影響等については承知しておりません。</p>	<p>平成29年度に弘前中央高校と統合した岩木高校では、1学年全員が取り組んでいた「レッツウォークお山参詣」への参加について、統合準備委員会での検討を経て、平成29年度以降、弘前中央高校から中南地区の高校に参加を呼びかけ、地区の高校生の参加を継続しております。</p> <p>また、県教育委員会としては、第2期実施計画において、生徒自身の居住する地域等について学習する「あおり創造学」を推進することとしており、高校の設置にかかわらず、生徒自身が居住する地域等の課題を知り、その解決を図る学習を通して、これからの時代に必要な力を生徒一人一人が身に付け、それぞれの地域を支える人財の育成を進めることにより、ひいては地域の活性化につながるものと考えております。</p>
12	統合	<p>第2期実施計画（案）では浪岡高校と青森西高校を統合するという形で示されたが、浪岡地域の回覧では、浪岡高校が閉校となることが書かれ、統合ということは書いていなかった。このような閉校ありきの記載では、浪岡地域の住民はより悲観的になってしまう。浪岡中央公民館でも地区懇談会を開催することのだが、統合になるとは誰も思っていないので、統合校の設置場所について一度アンケートを行い、意見をまとめ提示してくれた方が住民としては分かりやすい。</p>		<p>統合対象校としては、浪岡地域からの通学の利便性や浪岡中学校卒業者の進学動向等を考慮し、青森西高校としたものであり、両校の現在の入学者数の状況等を踏まえ、青森西高校の校舎を使用することとしたものです。</p>

No	区分	意見・提案の内容	7月19日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
13	統合	<p>統合の検討に当たっては、その地区の中学校卒業生数等がかなり影響していると思う。第2期実施計画策定時点の令和4年度の中学校卒業生数の見込みが2,492人となっているが、平成29年度の第1期実施計画策定時点においては2,458人であり、これは市長と一生懸命頑張ったこともあり、県が試算した数字より減っていない。このような中で、なぜ浪岡高校が統合となるのか。東青地区について、入試倍率が1倍を超えている状況であるが、説明では浪岡高校閉校ありきの試算しかしていない。三八地区では、先ほどの県の試算からかなり中学校卒業生数の見込みが減っている状況であるのに、統合案が示されていない。もっと真摯に高校の閉校を含めた形で検討すべきではないか。</p>	<p>三八地区では、第1期実施計画において五戸高校、田子高校が募集停止となったことも含め、第2期実施計画における学校配置を検討したものです。県教育委員会としては、各地区の中学校卒業生数の見込み等を踏まえながら今回の案に至ったところです。</p>	<p>「青森市総合戦略 人口ビジョン編」（平成27年度策定）における将来展望について、2010年の299,520人に対して2030年には249,949人と推計し、「青森市総合戦略2020-2024 人口ビジョン編」（令和元年度策定）における将来展望については、2015年の287,648人に対して2030年には244,588人と推計しており、いずれもこの間は人口減少があるものと推計されています。</p>
14	統合・全国募集	<p>今回の浪岡高校の統廃合については、地域を代表して反対を申し上げる。浪岡高校は、環境教育、商業教育、さらにはスポーツの分野でも大変優秀な成績を収める高校である。第2期実施計画では、全国からの生徒募集という大きな目玉を持っているが、こうした全国に轟くような教育内容を持つ高校こそ導入すべきである。</p>	<p>浪岡高校の統廃合については、地区として反対したいという御意見として承ります。</p>	
15	統合・全国募集	<p>浪岡高校を是非存続してほしいと思う。浪岡地域には歴史があり、行政として青森市が合併した経緯の中で大変大きなエンジンとなっている。農業をはじめ、様々な分野で青森市は浪岡地域と一緒に発展していこうという思いである。また、浪岡高校バドミントン部をはじめ、様々な人材が全国から集まっている実績も大きなものだと思っている。</p> <p>青森西高校との統合案が提示されているが、青森市には県立高校と私立高校が多数ある中で、浪岡高校は特徴を持った高校であり、この浪岡地区に統合校を設置しても良いと思う。統合校を浪岡高校の校地にする考えはないのか聞きたい。</p>	<p>浪岡中学校卒業生の進路状況の過去5年の人数と割合について、東青地区の県立高校への進学は286名で約39%、中南地区など他地区の県立高校への進学は233名で約32%となっており、比較すると東青地区の方が多い状況となっております。そのうち青森西高校への進学は55名で約7%、青森北高校への進学は34名で約5%となっており、これら生徒の進路状況や通学の利便性等を総合的に勘案し、青森西高校の校地を利用することとしたものです。</p>	<p>統合対象校としては、浪岡地域からの通学の利便性や浪岡中学校卒業生の進学動向等を考慮し、青森西高校としたものであり、両校の現在の入学者数の状況等を踏まえ、青森西高校の校地を利用することとしたものです。</p>

No	区分	意見・提案の内容	7月19日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
16	統合・全国募集	<p>現在、浪岡地域からではなく、青森地域から自分の子どもが浪岡高校に通学している。昨年90周年記念式典を行い節目を迎えたが、保護者や生徒も7月7日に浪岡高校を統合する計画（案）が公表され、突然、募集停止や閉校という言葉が出たことに驚き、動揺を隠せない生徒がすごく多い。この前90周年式典を行ったばかりなのに高校がなくなるのかという声や、もう浪岡高校を壊してしまうのかという意見も多く聞いている。現在も、青森地域から何人も浪岡高校に通学しており、北島まつりなど地域の行事や運動会などにみんなで参加し、少人数ではあるが先生方と一緒に楽しく活動できる高校である。また、バドミントンでも功績を残している。あまりに急なことだったため、再検討してほしいというのが生徒と保護者からの意見である。</p>	<p>浪岡高校は地域と一体となり、少人数ながらもきめ細かな指導で先生と一緒に教育活動を展開しているという話も伺っており、地域の方々には本当に感謝を申し上げます。ただ今の御意見についても持ち帰って検討したいと思います。</p>	<p>基本方針では、大学等への進学や就職等により幅広い進路選択に対応できる教科・科目を開設するとともに、学校行事をはじめとする特別活動等の充実や多様な部活動の選択肢を確保することにより、高校段階で身に付けるべき「確かな学力」、「逞しい心」や学校から社会への円滑な移行に必要な力等を育成することができるよう、基本となる学校について1学級当たり4学級を標準としております。</p> <p>東青地区では、中学校卒業生数の更なる減少が見込まれる中、現在2学級規模の浪岡高校について、近年の入学人数が1学級規模にも満たない状況が続いております。</p> <p>また、浪岡地域から鉄道を利用して20分で通学が可能であることや浪岡中学校卒業生の進学動向等を踏まえ、浪岡高校と青森西高校を統合することとしたものです。</p> <p>県立高校として、生徒の進路志望に応じた多様な学びを提供するとともに、多くの生徒の中で多様な価値観に触れながら成長できるよう、充実した教育環境を整備することとしたものです。</p> <p>県教育委員会としては、第2期実施計画の決定に向け、地区懇談会やパブリックコメント等を通していただいた御意見の一つ一つについて、教育委員へ報告するとともに、教育委員会会議での検討を経て決定することとしており、御意見として承ります。</p>
17	全国募集	<p>資料1の42ページに全国からの生徒募集の導入の目的が記載されている。県外から目標を持った生徒を受け入れるとあるが、県では具体的にどういった目標を持った生徒を想定しているのか。</p>	<p>様々なことが想定されます。例えば高校で、地域資源を活用した教育活動や、特色ある教育活動を行っている場合など、それぞれの高校の魅力や特色を求めて県外から志望する生徒を想定しております。教育活動について、具体的には、今回候補校となっている高校が所在する市町村と連携しながら詰めていきたいと考えております。</p>	<p>各候補校において、地域資源の活用など連携した教育活動を展開しているところであり、本県ならではの魅力や特色に興味を持ち、本県で成長したいという目標を持った生徒を想定しております。</p> <p>なお、県教育委員会としては、県外生徒を受け入れることで、高校の活性化に期待するほか、県内生徒が多様な価値観に触れ、コミュニケーション能力の向上や切磋琢磨する気持ちの醸成を目指すものです。</p>

No	区分	意見・提案の内容	7月19日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
18	全国募集	<p>浪岡高校に関しては、県立高校のバドミントン部にとって大変優秀な成績を残してきており、また、全国から浪岡高校でバドミントンがしたいという思いで生徒が入学してきていることも事実である。このような状況から、全国からの生徒募集の目的に対して、浪岡高校は先進事例となっていると思う。</p> <p>確かに、定員充足率や浪岡中学校からの入学者数について減少しているのは承知しているが、このように実績を残している学校をどのように残していくか、生かしていくか、これらを県として是非前向きに検討し、我々にプレゼンしてほしい。その上でないと、なかなか議論は進んでいかないと思うが、どのように考えるか。</p>	<p>ただ今の御提案については、持ち帰って御意見として承ります。</p>	<p>基本方針では、大学等への進学や就職等により幅広い進路選択に対応できる教科・科目を開設するとともに、学校行事をはじめとする特別活動等の充実や多様な部活動の選択肢を確保することにより、高校段階で身に付けるべき「確かな学力」、「逞しい心」や学校から社会への円滑な移行に必要な力等を育成することができるよう、基本となる学校について1学級当たり4学級を標準としております。</p> <p>東青地区では、中学校卒業生数の更なる減少が見込まれる中、現在2学級規模の浪岡高校について、近年の入学者数が1学級規模にも満たない状況が続いております。</p> <p>また、浪岡地域から鉄道を利用して20分で通学が可能であることや浪岡中学校卒業生の進学動向等を踏まえ、浪岡高校と青森西高校を統合することとしたものです。</p> <p>県立高校として、生徒の進路志望に応じた多様な学びを提供するとともに、多くの生徒の中で多様な価値観に触れながら成長できるよう、充実した教育環境を整備することとしたものです。</p> <p>県教育委員会としては、第2期実施計画の決定に向け、地区懇談会やパブリックコメント等を通していただいた御意見の一つ一つについて、教育委員へ報告するとともに、教育委員会会議での検討を経て決定することとしており、御意見として承ります。</p>
19	全国募集	<p>現在も県外から目標を持った多くのアスリートが浪岡高校に入学している。なぜ、全国からの生徒募集の対象校から外れたのか理解できない。今回の衝撃的なニュースを聞いた在校生や将来の夢を叶えるために浪岡高校に入学を希望している子どもたちの受けた精神的苦痛は計り知れないものだと思う。</p>	<p>昨年度実施した地区意見交換会では、県立高校への導入に賛成する御意見が多かった一方で、県内中学生の入試環境への影響の懸念、つまり倍率が高い高校へ導入した場合、県内中学生が入れなくなる事態が起きるのではないかという御意見等も複数ありました。そこで、候補校として、地域校と過去5年の定員充足率の平均が90%以下の高校とし、これらに該当する高校へ県外から生徒を受け入れることによって、県内生徒と県外生徒が切磋琢磨し高校の活性化を進めることができる環境を作りたいと考え、制度設計したところです。</p>	
20	全国募集	<p>資料1の中で、全国からの生徒募集についての記述がある。これは地区意見交換会の意見を基にして作成したことになっている。地区意見交換会において、全国からの生徒募集をどの範囲で導入するか検討した際に、特色ある教育活動という意見もあるが、他県から注目度の高い部活動実施校の具体例として三本木農業高校の相撲部へ導入するという意見もあり、浪岡高校のバドミントン部も同様の考え方に立てば導入が考えられるのではないかと。</p> <p>また、地区意見交換会では、オブザーバーである浪岡高校校長の発言の中で、あまり意欲的でないような県内生徒も県外から入学しているバドミントン部の生徒に牽引され、リーダー性を発揮し、成長するなど教育的な効果が見られるという内容であった。このことから、是非浪岡高校に全国からの生徒募集を導入してほしい。東青管内にもそのような高校が1つあって良いのではないかと。</p>	<p>全国からの生徒募集の制度設計に当たり、候補校の対象を地域校と定員充足率の90%以下の高校として考えたものです。部活動による導入に関する御提案については、持ち帰って御意見として承ります。</p>	
21	全国募集	<p>事務局からの説明で、全国からの生徒募集を導入することで県内生徒の進学に影響を与えるとあったが、そもそも今の浪岡高校の定員充足率から、その心配は全くないと思うがどうか。</p>		

No	区分	意見・提案の内容	7月19日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
22	全国募集	<p>スライドに全国からの生徒募集の候補校がある。浪岡高校は17名ほどバドミントン部に県外生徒がいると聞いているが、県外生徒が17名以上存在している候補校があるのか。</p>	<p>中学校の段階で他県から浪岡中学校へ入学している生徒が浪岡高校へ進学していると聞いております。現状で県立高校は全国からの生徒募集を導入していないため、数字は持っていませんが、候補校で17名以上の入学の状況はないと思います。</p>	<p>令和3年度の入学状況について、候補校8校のうち、三戸高校へ岩手県から1名が「県境隣接地域県立高等学校入学志願取扱協定」により入学しております。</p> <p>【参考：県境隣接地域県立高等学校入学志願取扱協定】 当該協定を岩手県と秋田県の2県と本県の間で、それぞれ締結しており、協定に定める市町村に住所を有する者が協定に定める本県の高校に志願することを認めております。</p>
23	学校・家庭・地域等との連携の推進	<p>子どもが3人おり、大学1年生、中学校3年生、小学校6年生だが、様々な形で小中学校や高校の教育に親として、保護者として関与させていただいている。資料1の39ページの記載内容について、「小・中学校と連携し、高校の学びに触れる機会の提供や各発達段階に応じた教育活動を充実」とあり、魅力ある高校づくりというテーマとして非常に適切であると思っている。ただ、現実的には全然行われていないと感じる。小中学校は義務教育であり連携が見られるが、高校の場合は全県一区であることでの地域の協力の難しさもあり、三内地域では一番近いのが青森西高校であるが、まだまだ不十分だと感じる。今後どのように連携を進める考えなのか聞きたい。</p>	<p>実際に連携しながら取り組んでいる事例もあるが、不十分な面もあるという御意見として承ります。</p>	<p>これまでも、次のような取組を実施しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青森東高校の生徒による青森市立原別小学校の生徒の夏季休業期間中の学習支援 ・五所川原農林高校生徒と五所川原市立泉小学校生徒による田植え体験活動 ・十和田工業高校生徒による十和田市立東小学校生徒へのプログラミング体験学習 <p>第2期実施計画において、生徒自身の居住する地域について学習する「あおり創造学」を、地域の協力も得ながら推進することとしており、具体的な取組内容について、小中学校との連携も視野に検討して参りたいと考えております。</p>

No	区分	意見・提案の内容	7月19日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
24	学校・家庭・地域等との連携の推進	<p>資料に「コミュニティ・スクール導入校における成果や課題の検証を踏まえ、他校においても段階的な取組を実施」していきたいと記載されているが、実際に青森市内、東青地区では高校への導入事例がないということで良いか。地域課題や学校課題を解決するのがコミュニティ・スクールの役割と思っており、導入の推進も今後の課題だと思っている。なお、浪岡中学校学区でもコミュニティ・スクールを導入しており、浪岡高校も連携すれば、様々な形で地域課題、学校課題が解決されていくきっかけになるものと考え。様々な形で課題をどのように解決していくか考える上で、地元の地域の方、保護者、学校関係者が一緒になって考えるコミュニティ・スクールは非常に良い場だと思うため、学校単位でも良いので、青森市の取組を参考に、県としてもコミュニティ・スクールの高校への導入を早く進めてほしい。そのことが魅力ある高校づくり、かつ地域づくりにつながっていくものと考えている。</p>	<p>現在、青森市内及び東青地区の県立高校への導入はないが、全日制高校では黒石高校へ導入しているほか、特別支援学校でも数校導入しており、これら導入校における実施内容の検証結果等を踏まえながら、進めていきたいと考えております。</p>	
25	ICTの活用による教育活動の充実	<p>資料1の41ページにICTの活用について記載がある。私立高校に去年まで自分の子どもが在籍していた際、コロナウィルス感染症の影響で高校が閉鎖になったことや私立高校だったことも関係しているかも知れないが、ICTを活用した取組が不十分だったと考えている。今の高校では、どこまでICTの活用をしてカリキュラムが実施されているか分からないが、ICTを活用することで、青森市教育委員会が去年取り組んだ遠隔授業の展開など様々な活用方法が考えられ、浪岡高校においても、ICTを活用することで存続も考えていけるのではないかと。高校教育としての人数の制約等があることは承知しているが、ICTの特徴を生かした展開が可能であるとされており、青森市内の小中学校に比べると、まだまだ高校のICTの活用が不十分であると聞いているので、青森県の宝である子どもの教育のために、早めに予算化し、取組を進めてほしい。</p>	<p>県教育委員会では、教職員研修等も含めて充実に向けた取組を進めているところですが、不十分ではないかという御意見として承ります。</p>	<p>県教育委員会では、国のGIGAスクール構想を踏まえ、令和元年度から令和2年度にかけて、教室への無線LANの整備を含めた高速大容量の通信ネットワーク整備を行ったところです。</p> <p>また、感染症や災害等による臨時休業が生じた場合の家庭学習支援等に備える必要があることや、令和4年度からの高等学校新学習指導要領への対応を図り確かな学力の向上に資することから、令和3年度中に1人1台端末を整備することとして、準備を進めております。</p> <p>引き続き、ICT環境の整備を進めるとともに、ICTを活用した授業づくりや教員研修の充実を図って参ります。</p>

No	区分	意見・提案の内容	7月19日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
26	計画策定の進め方	第2期実施計画（案）の性格について質問したい。第2期実施計画（案）が7月に公表されたが、今日の地区懇談会やパブリックコメントを経て、10月に第2期実施計画を決定されると伺った。第1期実施計画策定の際は、地区懇談会において、第1期実施計画（案）の中里高校や五戸高校の配置に関する内容に対して地区の大きな反対があったが、全く変わらず実施計画として決定された。第2期実施計画（案）についても、同様に案として示されたものが実施計画として決定される予定か、この場で意見交換の前提として質問したい。	第1期実施計画（案）の公表後、地区懇談会等を経て、五戸高校の設置主体を含めたあらゆる検討を行うための時間を求める要望があったことを踏まえ、計画決定に至る段階で統合を見送る形に変更しております。このような例も踏まえ、県教育委員会としては、第2期実施計画の決定に向け、この地区懇談会やパブリックコメント等を通していただいた御意見の一つ一つについて、教育委員へ報告するとともに、教育委員会会議での検討を経て決定することとしており、第2期実施計画（案）がそのまま決定されることが決まっているものではありません。	
27	計画策定の進め方	今後のスケジュールについて、資料1の47ページには、第2期実施計画を10月に決定する予定と記載されているが、本日出された様々な宿題に対して、10月の決定前にもう一度この場を設けて、その回答を事務局からほしい。	7月30日に地区懇談会を開催することとしているが、さらに懇談会を開催するとなれば、日程や場所の調整等も必要となるため、少し時間をいただいて検討したいと思います。	
28	計画策定の進め方	浪岡高校が統合となる案が先日新聞に掲載されたが、浪岡地域で子どもたちの意見を聞くと、閉校という言葉が聞いただけで、もう浪岡高校を受検できなくなるものと皆勘違いしている。新聞に掲載された時点で、もう高校がなくなるのではないかといった気持ちになり、せっかく浪岡高校を受検しようとしていた子どもたちが、これから先どこの高校に進学すれば良いのかと皆考えている。私の友達に青森西高校を卒業した保護者もいるが、青森西高校側からは、浪岡高校とは統合したくないという話も聞いている。これらを考慮すると、どちらが良いのか県教育委員会も分かると思う。 最初に「計画はあくまでも案」であると確認していたが、これまでの事務局の回答は結果を出すための言い訳にしか聞こえないため、この計画はあくまでも案であり、変わることがあるのか聞きたい。	県教育委員会としては、地区懇談会等を通じて様々な御意見を伺いながら検討して参りたいと考えております。	

No	区分	意見・提案の内容	7月19日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
29	計画策定の進め方	<p>様々な意見を伺いながら検討していくことは、第2期実施計画（案）が変わることもあって良いか。</p>	<p>現時点では計画案という段階であり、これから地区懇談会やパブリックコメント等で御意見を伺いながら、さらに検討を重ねたいと考えております。</p> <p>地区懇談会では、県教育委員会の考え方も御説明して、なかなか御理解いただくことは難しいかもしれませんが、このような考え方であるということもある程度御理解いただきたいと思います。ただ、いただいた御意見については、一つ一つしっかりと検討したいと考えており、この場で何かを決めるといった手法は取らず、多くの御意見を伺いたいという趣旨で開催しております。</p>	
			<p>統合案に関する県教育委員会の考え方を述べさせていただきます。県立高校の場合は小中学校と違って学区がなく、生徒は、県内どこの高校でも受検できるようになっております。そうした中で、小学校、中学校と成長段階に応じた教育を受け成長し、高校ではもっと広い範囲で、また多くの生徒等との関わりの中で更に成長していくものと思っており、このため、生徒に一定の教育環境を確保したいというのが一番大きな考え方です。</p> <p>先ほどの事務局説明にもありましたが、一定規模の高校では多様な科目や多くの部活動を開設し、それを生徒が経験できること、また、多くの同級生、上級生、下級生との関わりの中で成長できる環境が提供できることを大事に考えております。</p> <p>御理解いただくのは難しいとは思いますが、例えば一つの小さな高校で、一つの部活動が全国有数の部活動で、育力があり、全国から生徒が集まるような高校があるとして、一方でその部活動に関わらない生徒に対してどこまでの教育環境を提供できるのか。科目数や部活動、生徒との関わりの中で、県立高校として充実した教育環境を生徒に提供する必要があります。そういった考えの下で、東青地区の学校規模・配置を考えた結果がこの案です。</p> <p>本日、たくさんの御意見をいただきましたが、先ほどから申し上げているとおり、一つ一つの御意見について、教育委員会会議において更に検討したいと考えております。</p>	

No	区分	意見・提案の内容	7月19日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
30	計画策定の進め方	7月30日に次回の地区懇談会が予定されているが、同様の説明を受け、かみ合わずミスマッチの議論を続けるような状況では、地区懇談会にならない。本日「持ち帰って検討する」と回答があった意見は真摯に受け止めて、7月30日の地区懇談会で少しでも回答されるのか。それとも、全く同じ形で開催するのか聞きたい。	本日の御意見を踏まえた地区懇談会として開催したい考えですが、7月30日の地区懇談会の参加者は、本日の参加者以外にも様々な方が御出席されると思いますので、改めて様々な方の御意見も伺いながら、県教育委員会の考え方について御説明したいと考えております。	
31	計画策定の進め方	持ち帰って検討し、決定のときでないと結論が出ないため、後がない段階で説明するということか。本日、様々な提案があり、県教育委員会では持ち帰って検討すると言ったが、結果は決定段階でないと分からないという意味か。	第2期実施計画決定前に結論を示すことは難しいと考えておりますが、いずれにしてもしっかりと検討したいと思っております。	
32	計画策定の進め方	持ち帰って検討すると言ったからには、7月30日の地区懇談会において回答すべきと考える。本日、参加者からあった御意見に対して持ち帰り検討することとした事項とその回答を資料7として配布してほしい。本日、持ち帰った事項への回答がなく、また本日と同様に一から説明するのはおかしいのではないか。	7月30日に浪岡中央公民館において同様に地区懇談会を予定しております。その際、本日の議論を踏まえた上で意見交換ができるよう、資料7かどうかは未定ですが本日の概要等を用意し、更に議論を深めたいと考えております。	
33	計画策定の進め方	事務局からは、次回だけでなく、必要な場合は更に地区懇談会を開催するという回答もあった。機会があれば、7月30日以降もう一回開催できるが、その際は青森市で会場として浪岡中央公民館を確保するので、皆さん是非参加してほしい。		

東青地区懇談会（7月30日）における意見等

※区分ごとに整理しているため、発言順となっていない場合があります。

No	区分	意見・提案の内容	7月30日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
1	地域づくり	<p>前回の地区懇談会において、青森市長から浪岡高校の統合が地域の街づくりに逆行するとの意見があり、この意見に対して、県教育委員会から街づくりと教育の両立は非常に難しい部分があるとの回答があった。改めて、この点について考えを聞きたい。</p>	<p>浪岡地域に限らず、各地域において人口が減っていく中で、街の特徴を生かして、伝統行事や文化等を次の世代に引き継いでいくことが難しくなってきていると考えております。</p> <p>小学校、中学校は学区があり、学校を中心に地域と連携して生徒を育てていくことができるが、高校は学区制ではなく、地域の子どもたちは地域外の高校へ進学する割合が多くなっており、そういった中で、いかに地域に居住する高校生と地域との関わりを持たせるかということが、非常に難しい問題だと思います。どの地区においても、街づくりは重要であり困難な課題であると捉えています。</p>	<p>青森県立高等学校教育改革推進計画では、社会の急速な変化や生徒数の更なる減少等を踏まえながら、本県の生徒一人一人に、これからの時代に求められる力を育むため、高校教育を受ける機会を確保しながら、計画的な学校規模・配置に取り組むこととしております。</p> <p>また、生徒が高校の所在する地域のみならず、自身が居住する地域や生まれ育った地域等について理解を深める学習である「あおもり創造学」などを各校で進めることにより、郷土に対する愛着や誇りを持ち、それぞれの地域を支える人財として成長していくことが、地域の活性化につながっていくものと考えております。</p> <p>「青森県基本計画「選ばれる青森」への挑戦」においては、教育・人づくり分野で「青森県の未来を切り拓く人財の育成と活躍促進」を掲げており、県立高校教育改革と方向性は同じであると認識しております。</p>
2		<p>浪岡地域の産業や企業に従事し、民生活動や伝統行事を支えて定着をしている多くの住民は、浪岡高校の卒業生であり、地域の中心的な役割を担っている。</p> <p>高校と地域の関わりは、県教育委員会の管轄外なのか。</p>		
3	地域校	<p>浪岡地域は農業をはじめ、バドミントン部の活躍で全国から17名の生徒が浪岡高校に入学しており、全国から生徒を集めることができる地域である。青森地域には県立高校や私立高校が多数あり、中南津軽の交通の要衝である浪岡高校を地域校として配置することに何ら不思議はない。</p> <p>浪岡高校を地域校として配置していただき、小野寺市長に強い思いで協力してもらった上で存続のために青森市と協議できないか。</p>	<p>学校規模の標準を満たさない高校のうち、募集停止等により高校への通学が困難な地域が新たに生じる場合には地域校として配置することとしております。具体的には、路線の整備状況、利用時間帯、利用時間といった観点から高校ごとに検討し、地域校になるかどうかを判断しているものであり、第2期実施計画（案）では、鱒ヶ沢高校、大間高校、六ヶ所高校と三戸高校が地域校に該当します。</p>	<p>平成29年度に策定（令和2年度に改定）した基本方針において、学校規模の標準を満たさない高校であっても、募集停止等により高校への通学が困難な地域が新たに生じる場合は地域校として配置すること、また、高校への通学が困難な地域については、公共交通機関の状況を考慮することとしており、これらを踏まえ、地域校を配置することとしております。</p> <p>浪岡高校については、これらの状況を踏まえると地域校に該当しないものです。</p>

No	区分	意見・提案の内容	7月30日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
4	学校規模の標準・学級編制の弾力化	<p>人口減少に歯止めがかからない中で、1学年4学級以上を学校規模の標準とすることが現実離れしていると考えます。3学級以下では十分な高校教育を受けられないとすることが、本県の人口減少の実態と将来の見通しから考えると実情に合っていない。県教育委員会は、小規模校や少人数学級編制を重視する施策に転換することが今こそ求められているのではないかと考えています。ただ生徒数の減少だけで閉校にするといったやり方では先が見えていません。</p>	<p>少人数学級編制等への転換を図るべきという意見について、法律で生徒の収容定員に応じた教職員定数が定められていることから、全国都道府県教育長協議会を通じて、学級編制基準の見直しを国に対し要望しているところです。</p>	<p>基本方針では、全ての高校において、生徒の幅広い進路選択に対応できる教科・科目を開設するとともに、学校行事をはじめとする特別活動等の充実や、多様な部活動の選択肢を確保することにより、高校段階で身に付けるべき「確かな学力」、「逞しい心」や「学校から社会への円滑な移行に必要な力」などを育成できるよう、1学年当たり4学級以上の規模を標準としております。</p> <p>教職員定数については、「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に基づき配置されることから、一定の学校規模を有する高校においては、生徒の募集人員等に応じた教職員定数の配置により、生徒の幅広いニーズに対応できる科目の開設や部活動の設置が可能となり、生徒の多様な進路志望の実現や活力ある教育活動につながるものと考えております。</p> <p>なお、基本方針では、学校規模の標準を満たさない高校であっても、募集停止等により地理的な要因から高等学校へ通学することが困難な地域が新たに生じることとなる高校については、地域における通学状況を考慮した上で、地域校として配置することとしております。</p>
5		<p>1980年代の臨時教育審議会において、一人一人を大切に教育のため、1学級30人編制が良いと言われており、浪岡高校においても実施できるのではないかと考えています。北海道の例では、高校の約3割が1学年1学級から2学級であり、1学年20名程度で1校あたり約90名となっているが、地域キャンパス校という制度を設けて展開している。コロナ禍において、教科を担当する教員が不足しても、オンラインで授業を行う方法があるため、例えば、浪岡高校を地域キャンパス校にして、本校を青森西高校にすることで、1学級から2学級規模で浪岡高校を維持できると考えています。</p> <p>全国的にも少子化が一般的な傾向としてあり、青森県のように効率性を重視し、単純に数合わせで浪岡高校を青森西高校へ統合するのではなく、地域の存続を第一に考え、存続するための教育制度を考えてほしい。</p>		<p>高校の学級編制については、「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」により、1学級40人を標準とし、また、教職員定数は募集人員によることとしていることから、全ての高校で1学級の定員を35人とした場合、学級数は同じであっても、配置できる教職員数も減ることとなり、生徒の多様な進路志望に応じた教科・科目の開設が制限されることや、様々な専門性を有する教員の配置が困難になること等が懸念されます。</p> <p>学級編制基準の見直しについては、全国都道府県教育長協議会を通じて国に対し要望しているところです。</p>

No	区分	意見・提案の内容	7月30日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
6	浪岡高校の入学人数	浪岡高校の志願・入学状況についてである。黒石市や弘前市、藤崎町、旧青森市から通学可能な利便性がある浪岡高校への志願・入学者が、なぜ減り続けているのか。これは、平成12年度から具体化した県教育委員会の高校教育改革実施計画、特に平成21年度の第3次実施計画（前期）以降、町村部の小規模校が閉校となったことで、生徒や保護者の心理的な影響があることや、現在、青森市、弘前市から私立高校のスクールバスが頻繁に通っており、私立高校との競合の影響が大きいことが理由ではないかと感じているが、県教育委員会の認識を伺いたい。	浪岡高校の志願・入学者数の減少については、中学生のニーズや中学校における進路指導等の結果だと認識しております。	
7	統合	細野地区からは、青森西高校への公共交通機関もない。通学する場合は電車通学となるが、電車の通学費程度であっても経済的に苦しい世帯もあると思う。中学校までは義務教育だが、今は高卒者が多いため、高校進学に影響が生じないよう、できれば統合せずに浪岡高校をこのまま存続してほしい。		経済的理由により修学が困難な生徒を対象として、授業料以外の教育費の負担軽減を図るため、「奨学のための給付金」を平成26年度から給付しているほか、通学費や下宿費の負担軽減を図るため、（公財）青森県育英奨学会と連携し、高校奨学金通学費等返還免除制度を令和2年度から実施しているところです。 このような制度を活用しながら、引き続き通学支援を実施して参ります。
8		青森県、浪岡地域への貢献度という観点からは、浪岡高校は大変貢献している。 バドミントン部の卒業生の進学先は、青山学院大学や日本大学、金沢学院大学となっており、また、浪岡高校からの大学進学は31名となっているが、県外大学はバドミントン部の生徒5名、県内の短期大学や専修学校、各種学校に26名進学しており、青森県に貢献している。さらに、浪岡高校からは就職率にして100%となる26名が就職しており、県内就職は21名、県外就職は3名、自衛官2名に留まっている。知事も若者の県内定着を進めているが、浪岡高校はほとんどの生徒が県外流出しておらず、これだけ貢献している高校はあるかという点も踏まえ検討してほしい。 浪岡中学校生徒が浪岡高校に進学するのは、学力以外に、授業料など経済的な側面がある。浪岡中学校の生徒は浪岡高校に徒歩と自転車で通学できるが、青森西高校や青森北高校と統合した場合、通学費が生じ家計を逼迫することも加味して統合を考えてほしい。 3年ほど前から偏差値も極端に上がっている。今や県外就職者が多い高校ではなく、ほとんどの生徒が上級学校を目指して勉強している。これらを踏まえ、検討してほしい。	県教育委員会では、県外に進学した生徒が地域や青森県に貢献していないとは考えておらず、学力で子どもの価値が決まるとも考えておりません。県教育委員会としては、全ての生徒に充実した教育環境をどのように提供するかという観点で計画を検討しております。いただいた御意見については教育委員に報告し、教育委員会会議において検討します。	このように制度を活用しながら、引き続き通学支援を実施して参ります。 なお、学校配置については、地区懇談会等いただいた御意見を参考にしながら、引き続き教育委員会会議において検討を進めて参ります。

No	区分	意見・提案の内容	7月30日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
9	統合	<p>浪岡高校と青森西高校が統合して、閉校前までは浪岡高校に入学したような生徒が、青森西高校に入学できるかという点、10点以上の偏差値の差があり到底無理だろう。このような生徒は、よほど頑張らなければ旧青森市内の高校には入学できない現実がある。浪岡高校には、社会情勢、学力、家庭環境等の理由で、県立高校での教育を希望する生徒が入学している。県教育委員会は、このような生徒が県立高校で教育を受ける機会を奪い私立高校へ行かせるつもりか。それを県教育委員会が第2期実施計画として実行しようとしている。</p> <p>県教育委員会が言う充実した教育環境の整備とは、どのレベルの、どのような生徒に充実した学習環境を提供するということか。進学校だけを残すような計画は、あまりにも暴力的な考え方である。浪岡高校を希望する生徒を温かく見守るような計画をお願いしたい。この計画案には断固反対であり、浪岡高校の存続を希望する。</p>		<p>本計画案における県立高校の募集学級数については、中学校卒業生数の見込みから過去の実績による高校進学率等をもとに高校進学者数の見込みを算出し、高校への進学志望者に対し募集学級数が不足することがないように見込んでおります。</p> <p>東青地区では、中学校卒業生数の更なる減少が見込まれる中、現在2学級規模の浪岡高校については、近年の入学者数が1学級規模にも満たない年度が連続している状況です。</p> <p>また、浪岡地域から鉄道を利用して20分で通学が可能であることや浪岡中学校卒業生の進学動向、地域と連携した教育活動の取組状況等を踏まえ、生徒の進路志望に応じた多様な学びを提供するとともに、多くの生徒の中で多様な価値観に触れながら成長できるよう、浪岡高校と青森西高校を統合し、充実した教育環境を整備することとしたものです。</p> <p>県立高校では、将来、社会に出て行くこととなる子どもたち一人一人が、これからの時代に求められる力（「確かな学力」をはじめとする「生きる力」や本県が特に重視する「逞しい心」「社会への円滑な移行に必要な力」「郷土に誇りを抱き、本県の未来を力強く支えようとする心」）を身に付け、本県の未来を担う人材として成長することのできる高校教育を目指し、高校教育改革を進めているところです。</p> <p>地区懇談会等でいただいた御意見を参考にしながら、引き続き、教育委員会会議において検討を進めて参ります。</p>

No	区分	意見・提案の内容	7月30日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
10	統合	<p>計画案では、統合校の方向性や目指す姿等が記載されているが、全て浪岡高校へ当てはまると考える。スポーツも個性や能力を伸ばすという点では同じである。浪岡高校は通学面等で教育環境が良いと思うが、なぜ閉校しなければならないのか。</p> <p>何のための地区懇談会なのか、地区懇談会で存続の意見が多数あった場合は、再検討することは可能なのか聞きたい。</p> <p>令和8年に開催される青森国民スポーツ大会での全国制覇に向けて生徒が頑張っている中、大会終了後、すぐに閉校となることは、生徒が可哀想ではないか。第2期実施計画を10月頃に決定する必要があると説明があったが、計画期間の5年間の中で、一旦浪岡高校は配置することとした上で、どうすれば存続できるのか検討すべきではないか。</p>	<p>地区懇談会は、地域の様々な御意見を幅広く伺うことを主眼としております。現在は計画案という段階であり、いただいた御意見については教育委員に報告し、教育委員会会議において検討します。なお、教育委員会会議では、どのような学校配置が望ましいかという視点での検討となるため、どうすれば存続できるのか検討を求める御意見もあったことを報告します。</p>	<p>基本方針では、大学等への進学や就職等により幅広い進路選択に対応できる教科・科目を開設するとともに、学校行事をはじめとする特別活動等の充実や多様な部活動の選択肢を確保することにより、高校段階で身に付けるべき「確かな学力」、「逞しい心」や学校から社会への円滑な移行に必要な力等を育成することができるよう、基本となる学校について1学級当たり4学級を標準としております。</p> <p>東青地区では、中学校卒業生数の更なる減少が見込まれる中、現在2学級規模の浪岡高校については、近年の入学人数が1学級規模にも満たない年度が連続している状況です。</p> <p>また、浪岡地域から鉄道を利用して20分で通学が可能であることや浪岡中学校卒業生の進学動向、地域と連携した教育活動の取組状況等を踏まえ、生徒の進路志望に応じた多様な学びを提供するとともに、多くの生徒の中で多様な価値観に触れながら成長できるよう、浪岡高校と青森西高校を統合し、充実した教育環境を整備することとしたものです。</p> <p>地区懇談会等でいただいた御意見を参考にしながら、引き続き、教育委員会会議において検討を進めて参ります。</p>
11		<p>旧浪岡町が旧青森市と合併をした後の現在の浪岡地域と青森地域の状況を見れば、浪岡地域に高校は必要だと思う。</p> <p>教育改革と言うなら、15歳から18歳の大人になっていく過程の生徒の育成に向け、これまでの教育を踏まえてこれからの教育をどうするか示すことが教育改革だと思う。青森市全体の行政を考えたときにも、是非、浪岡高校を存続し、地域の新しい発展をつくり出していくことが必要である。</p>		

No	区分	意見・提案の内容	7月30日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
12	統合	<p>県教育委員会がこれまで取り組んできた高校教育改革は、地域間格差を生んでいると思う。弘前実業高校藤崎校舎を閉校して柏木農業高校に集約したり、弘前中央高校の定時制課程を廃止して尾上総合高校に集約したりするなど、なぜ平川市の住民だけが良い思いをするのか。藤崎校舎の閉校により、近隣の浪岡地域、板柳町、田舎館村や弘前市のりんご農家が被害を受けている。県立高校の教育費は県税で負担しているため、地域間格差を生むような教育制度の在り方は、非常に問題である。第2期実施計画においても、浪岡高校を青森西高校へ統合することで、青森地域の生徒だけが有利になる。浪岡地域の生徒は地域外への通学、状況によっては下宿生活も余儀なくされ、精神的・身体的な負担や保護者の経済的負担が非常に大きくなる。高校は地域の文化、産業、経済を支える使命があり、浪岡高校があるおかげで、他の地域から生徒が入学している状況もある。これまでの高校教育改革どおりに進めることで、浪岡地域の過疎化を進めることになる。生徒に等しく教育の機会を提供することが公教育の役割であり、不公平となる計画には反対である。</p>		<p>基本方針では、大学等への進学や就職等により幅広い進路選択に対応できる教科・科目を開設するとともに、学校行事をはじめとする特別活動等の充実や多様な部活動の選択肢を確保することにより、高校段階で身に付けるべき「確かな学力」、「逞しい心」や学校から社会への円滑な移行に必要な力等を育成することができるよう、基本となる学校について1学級当たり4学級を標準としております。</p> <p>東青地区では、中学校卒業生数の更なる減少が見込まれる中、現在2学級規模の浪岡高校については、近年の入学人数が1学級規模にも満たない年度が連続している状況です。</p> <p>また、浪岡地域から鉄道を利用して20分程度通学が可能であることや浪岡中学校卒業生の進学動向、地域と連携した教育活動の取組状況等を踏まえ、生徒の進路志望に応じた多様な学びを提供するとともに、多くの生徒の中で多様な価値観に触れながら成長できるよう、浪岡高校と青森西高校を統合し、充実した教育環境を整備することとしたものです。</p> <p>地区懇談会等でいただいた御意見を参考にしながら、引き続き、教育委員会会議において検討を進めて参ります。</p>
13		<p>青森北高校と青森西高校を統合するという意見があったが、青森地域の友人等も、自転車で15分～20分程度なのだから統合すれば良いと同じことを言う。青森北高校今別校舎の閉校や上磯地域への配慮が必要だと言うが、浪岡高校でも同様のことが言える。中南地区からも浪岡高校へ通学している状況があり、この地理的好条件を生かすべきではないか。黒石商業高校が閉校になり、商業コースが設置された浪岡高校が閉校となることで高校の選択肢が少なくなるため、子どもたちが可哀想であり、再考してほしい。</p>	<p>浪岡高校の存続という御意見について、教育委員に報告し、教育委員会会議において検討します。</p> <p>なお、昨年度、黒石高校と黒石商業高校を統合したところですが、それぞれ行ってきた教育内容は新しい黒石高校に引き継いで取り組んでいます。</p>	<p>第3次実施計画前期（平成21年度～25年度）において、普通高校に併設された1学級規模の商業科は、地区内の単独校へ集約することとし、平成24年度に百石高校商業科及び三戸高校商業科を、平成25年度に浪岡高校商業科をそれぞれ募集停止したところです。</p> <p>このため、浪岡高校商業科については、青森商業高校へ集約したところです。</p> <p>地区懇談会等でいただいた御意見を参考にしながら、引き続き、教育委員会会議において検討を進めて参ります。</p>

No	区分	意見・提案の内容	7月30日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
14	統合	資料によれば、県基本計画と整合性を図っているとのことだが、それならば、統合の責任は知事にあるのか伺いたい。	県立高校の設置・廃止については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、県教育委員会の権限となっております。	地方教育行政の組織及び運営に関する法律では、学校の設置、管理及び廃止に関する事務については、教育委員会が地方公共団体の執行機関となっており、実施計画（案）を最終的には教育委員会会議で審議し決定することとしています。 また、知事とは令和3年5月21日の総合教育会議において、第2期実施計画策定に向けた基本的な方向性について共通理解を図ったところです。 県教育委員会独自の計画であるため、県教育委員会で決定していくこととしておりますが、地区懇談会等において様々な御意見を伺いながら、引き続き、教育委員会会議において検討を進めていきたいと考えております。
15	統合（設置場所）	街づくりは、教育と一体でなければ進まない。よって、県教育委員会は、浪岡地域だけではなく、広範の地域から選ばれるよう浪岡高校の魅力を引き上げることが最も重要な取組のはずである。浪岡高校では生徒が減少しているが、これは県教育委員会が浪岡高校の魅力を引き出すことができなかったことの表れである。 青森市全体で考えれば、浪岡地域も青森市であり、青森西高校、青森北高校のいずれにせよ統合校を浪岡高校の校地に配置することが、地域性、街づくりの観点から有力な案である。 青森市全体で考えれば、例えば国立青森病院、浅虫病院、むつ市の大湊病院が統合して現在の国立青森病院が浪岡にあることなど、浪岡地域は利便性が高いと考えている。 よって、統合案については、地域性を考慮した上で白紙にして再度議論すべきではないか。	浪岡高校では、空き缶壁画や北畠まつりなどの活動を通して、地域社会の発展に貢献する人材育成等、様々な特色ある取組が行われていることは承知しておりますが、第2期実施計画計画（案）については、第一次進路志望状況調査において、浪岡高校の5年間の平均倍率が0.5倍前後である一方、浪岡高校以外の青森市内の普通高校の多くが1倍を超えていることから、生徒のニーズは浪岡高校以外の青森市内の高校にあることなどを含め、総合的に判断したものです。	地区懇談会等でいただいた御意見を参考にしながら、引き続き、教育委員会会議において検討を進めて参ります。

No	区分	意見・提案の内容	7月30日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
16	統合（設置場所）	<p>地域にとっては、地域経済への影響が切実な問題であり、なぜ前回の質問に対する回答がないのか。青森北高校や青森西高校は定員割れしていなかったのか。</p> <p>青森西高校の校舎を使うと説明があったが、青森西高校の最寄りの駅が3駅しか変わらないのだから、浪岡高校の校舎を活用しても同じだと言えないのではないか。浪岡高校の校舎を活用すれば、中南地区からも生徒が入学することが考えられる。2学級しかない高校に進学したいという生徒は増えない。6学級の統合校を浪岡高校の校舎を活用して設置した場合、中南地区の生徒が入学するかどうかといった検討がされていないと思う。</p> <p>浪岡高校を除く青森市内の全ての高校と浪岡高校を比較することが、浪岡高校をなくすことありきの説明である。</p> <p>つい先日第2期実施計画（案）が発表され、10月に第2期実施計画を決定するとのことであり、あと2か月程度しか時間がないが、どのように検討するのか。</p>	<p>令和3年度の前期入学者選抜の倍率について、青森西高校は1.05倍、青森北高校は普通科とスポーツ科学科合わせて0.86倍、浪岡高校は0.49倍です。このような入学者選抜の倍率も含めて総合的に考慮したものです。</p> <p>現状の青森地域と中南地区の生徒や浪岡地域の生徒のニーズを踏まえると、浪岡高校を急に6学級規模の高校として設置した場合、東青地区内の入試環境が大きく変わることから、青森地域や中南地区の学級数等を減らすことへの理解が得られるのか懸念されます。</p> <p>現在実施している地区懇談会やパブリック・コメント等を通じていただいた御意見については、教育委員に報告し、教育委員会会議において10月までに検討を進めて参りたいと考えております。</p>	
17	浪岡高校への学科の新設等	<p>存続させるための提案として、生物生産、環境工学、機械工学、食品化学、環境土木、ITに関する学科を設置し、校名を浪岡農業高校にしてはどうか。近隣には柏木農業高校、五所川原農林高校があるが、青森市にとっては奥羽本線やバスなど交通の面でも生徒にとって通学しやすい環境にある。</p> <p>浪岡農業高校で勉学に励み、その後指導的立場になって浪岡地域を全国に発信し、若者は積極的に農業に従事する流れを作ってほしい。働きながら農業を学ぶ定時制課程も復活してはどうか。浪岡地域のシンボルとも言える高校、登下校中の生徒の姿が明るい街づくりにつながっており、その光景を無くしてはならない。</p>	<p>御意見として教育委員に報告し、教育委員会会議において検討します。</p>	<p>近隣には、柏木農業高校が設置され、農業を担う人財を養成していますが、令和3年度には大幅な定員割れが生じており、このような中学生のニーズ等を踏まえ、農業科の設置については慎重な対応が必要となるものと考えます。</p> <p>また、基本方針において、定時制課程の学校配置の方向性として、様々な事情を抱える生徒に高校教育を受ける機会を提供する観点から、6地区ごとに配置することを基本としており、第2期実施計画（案）においては、第1期実施計画に引き続き、東青地区の定時制課程の高校は北斗高校としております。</p> <p>地区懇談会等でいただいた御意見を参考にしながら、引き続き、教育委員会会議において検討を進めて参ります。</p>

No	区分	意見・提案の内容	7月30日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
18	浪岡高校への学科の新設等	<p>魅力ある高校をつくるというのであれば、なぜ全国唯一のりんご科を有する弘前実業高校藤崎校舎を廃止したのか。また、弘前実業高校の農業経営科も募集停止することとなっている。柏木農業高校があるから仕方がないのかもしれないが、津軽平野の中心で人口が一番多い弘前市内の高校に農業科が全くなくなるのはいかがなものか。先ほど参加者から提案のあったように浪岡農業高校として設置すれば、計画案にある魅力ある高校をつくれるのではないか。青森県は全国に誇れる農業県であり、県庁所在地に農業高校があっても良いと思う。</p>	<p>弘前実業高校藤崎校舎については、当時の入学状況等を踏まえ、りんご教育を柏木農業高校に引き継いだ上で募集停止しており、また、今年度、弘前実業高校農業経営科を募集停止したところですが、どちらも教育内容を柏木農業高校に引き継いでおります。</p>	<p>第1期実施計画では、青森県立高等学校将来構想検討会議からの答申を踏まえ、生徒数が急激に減少する中であっても、農業教育の一層の充実を図るため、弘前実業高校農業経営科を募集停止し、充実した教育環境にある柏木農業高校に集約したものです。</p> <p>東青地区への農業科の設置については、中学生のニーズ等を踏まえる必要があるため慎重な対応が必要となるものと考えます。</p> <p>また、基本方針において、定時制課程の学校配置の方向性として、様々な事情を抱える生徒に高校教育を受ける機会を提供する観点から、6地区ごとに配置することを基本としており、第2期実施計画（案）においては、第1期実施計画に引き続き、東青地区の定時制課程の高校は北斗高校としております。</p> <p>地区懇談会等でいただいた御意見を参考にしながら、引き続き、教育委員会会議において検討を進めて参ります。</p>
19		<p>青森工業高校と統合して浪岡工業高校として、浪岡高校の校地へ設置してはどうか。県内様々な地域から生徒が集まることになり、浪岡地域の教育環境の向上や地域の活性化、JR浪岡駅の利用者増につながる。浪岡高校が閉校となることで、JR浪岡駅の利用者が少なくなれば、収入も減少し、いずれは無人駅になる可能性も出てくる。今でさえ浪岡地域の過疎化が進んでいるのに、さらに過疎化が進むと大変なことになるため、工業高校という方向性で検討してほしい。</p>		<p>青森工業高校については、校舎や実習棟の耐震対策のため平成22年度に全面改築していることを踏まえた対応が必要となるものと考えております。</p> <p>地区懇談会等でいただいた御意見を参考にしながら、引き続き、教育委員会会議において検討を進めて参ります。</p>

No	区分	意見・提案の内容	7月30日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
20	浪岡高校への	統合時点で6学級とせず、少しずつ学級数を増やすことも検討してほしい。特色ある学科の設置等、県教育委員会としても浪岡高校の存続に向けた方策を考えてほしい。		<p>特色ある学科の設置等については、中学生のニーズ等を踏まえた慎重な対応が必要となるものと考えております。</p> <p>地区懇談会等でいただいた御意見を参考にしながら、引き続き、教育委員会会議において検討を進めて参ります。</p>
21	の学科の新設等	<p>確かに浪岡地域は人口が少なくなったが、これは全国的な問題である。県教育委員会には、生徒数が減少する中、浪岡高校の生徒数の課題をどのようにしたら解決できるのか、青森西高校や青森北高校の得意な分野を浪岡高校の校舎を活用して実践できないかなどを検討してほしい。</p> <p>コロナ禍において、小野寺市長を先頭に浪岡地域の発展に取り組み、夢のある地域にしようとしている最中であり、今後、県内の高校を1校でも多く閉校させないよう、青森地域や中南地区から大規模校の専門分野を浪岡高校に取り入れることなどを議論すべきと考える。</p> <p>県教育委員会として、商工会や諸団体を通して妙案を示すなど考えられないか。統合ありきではなく、今まで以上に栄えのある浪岡高校の存続について、再度考えてほしい。</p>		
22	青森南高校	資料の高校の分布図から、浪岡高校が外れにあり、青森地域の高校は固まって設置されているため、交通の便が悪い青森南高校を素直に閉校としてはどうか。		<p>青森南高校については、第1次志望状況調査倍率（令和3年度：1.25倍）や入学状況（令和3年度：188人／定員200人）から中学生のニーズがあるものと考えております。</p> <p>なお、第1期実施計画において青森東高校平内校舎及び青森北高校今別校舎の募集停止により、郡部に高校が所在しない状況となったことから、第2期実施計画では郡部の生徒の鉄道駅から徒歩圏内に立地する高校への通学環境を考慮し、青森南高校及び青森中央高校の学級減を行うこととしております。</p> <p>地区懇談会等でいただいた御意見を参考にしながら、引き続き、教育委員会会議において検討を進めて参ります。</p>

No	区分	意見・提案の内容	7月30日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
23	全国からの生徒募集	浪岡高校を全国からの生徒募集の候補校とすることができないか。全国から生徒が入学した場合、生徒のみならず家族への旅費等の援助について、市議会として市長に強く要望したい。このため、実績のある浪岡高校を存続した上で全国からの生徒募集を導入してほしい。	全国からの生徒募集については、目的を持って県外から入学した生徒と県内生徒が、勉強などの高校生活を通して、高校を活性化することを目的として制度設計したところであり、地域校と定員充足率が90%以下となっている高校を候補校として考えたものです。	基本方針では、大学等への進学や就職等により幅広い進路選択に対応できる教科・科目を開発するとともに、学校行事をはじめとする特別活動等の充実や多様な部活動の選択肢を確保することにより、高校段階で身に付けるべき「確かな学力」、「逞しい心」や学校から社会への円滑な移行に必要な力等を育成することができるよう、基本となる学校について1学級当たり4学級を標準としております。 第2期実施計画（案）では、浪岡高校について、近年、入学者数が減少し1学級の定員である40人にも満たない状況が連続していることから、一定規模を有し充実した教育環境の中で生徒が教育を受けることができるよう、浪岡中学校からの進学状況や浪岡地域からの通学利便性等を考慮し、青森西高校と統合することとしたものであり、統合により教育環境の充実が図られることから、候補校から除いたものです。 地区懇談会等でいただいた御意見を参考にしながら、引き続き、教育委員会会議において検討を進めて参ります。
24	全国からの生徒募集	これだけ多くの方が参加して統合に反対していることは、重く受け止め、このような声を知事に届けてほしい。また、全国からの生徒募集の「統合対象校を除く」という括弧書きを削除できないのか。候補校を決定するには、所在する市町村からの支援を前提とした申し出があった高校と記載されており、提案内容も聞かないうちに最初から排除するという姿勢は共感できないため、同じ土俵に青森市も立たせてほしい。		
25	全国からの生徒募集	現在、浪岡高校に県外から17名の選手が来ているが、県立高校の場合は、県外から希望する選手は、保護者と一家転住したり、母親がついてきたりという状況で現在活動している。 そのような中で、これまでも全国からの生徒募集について、中学生の保護者等から問合せが多数あったが、現状では制約があるため、全国からの生徒募集が導入されれば入学できるかもしれないと回答してきたところであり、入学を希望している選手も今でもいる。このため、計画案を見直し、今すぐ統合を決定するのではなく、何年か猶予をいただき、全国からの生徒募集を導入し、結果が出なければ再度見直すことができないか。また、バドミントンでのセレクションを導入すれば、是非行きたいという声も多数聞こえている。地元出身の選手や浪岡高校を卒業した選手も、浪岡地域や青森に帰りたいという声が増えているため、是非、全国からの生徒募集を試してから統合を検討してほしい。		

No	区分	意見・提案の内容	7月30日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
26	計画策定の進め方	<p>地区懇談会等の意見を踏まえて計画案が修正、見直しされるのか。計画案には、県民の理解と協力の下でと記載されているが、個々具体的に見直しされた事例があれば説明してほしい。</p>		<p>第1期実施計画（案）の公表後、地区懇談会等を経て、五戸高校の設置主体を含めた検討を行うための時間を求める要望があったことを踏まえ、計画決定に至る段階で、五戸高校は統合せず県立高校として募集停止する予定とした事例があります。このような例も踏まえ、県教育委員会としては、第2期実施計画の決定に向け、この地区懇談会やパブリックコメント等を通していただいた御意見を参考にしながら、教育委員会会議での検討を経て決定することとしており、必ずしも第2期実施計画（案）がそのまま決定されるものではありません。</p>
27		<p>生徒数が減少しているから統合すると言えば良い。それに対して、心が通えるような教育を子どもたちに示していくべきと考えるが、浪岡高校の閉校が必要となることを、1年あるいは3年かけてでも地域と話し合いを重ねて、どうしてもやむを得ないとなれば仕方がない。子どもたちが健やかに学力を身に付ける環境を構築していくのが県教育委員会の役割であることを考えなければ、子どもたちが可哀想である。高校数が減少すれば行き場がなくなる生徒もいる。</p> <p>もっと真剣に、子どもたちが健やかな状態でくつろげる教育環境にすべきであり、地域も協力できると思う。これらのことを踏まえ、あと1年間、議論を重ねていく時間がほしい。</p>	<p>大学等への進学や就職など一人一人が進路の選択を実現するための教科、科目を幅広く開設すること、また、学校行事をはじめとする特別活動等の充実、多様な部活動といった様々な選択肢を確保することより、高校段階で身に付けるべき確かな学力、逞しい心を育成したいということが県教育委員会の計画案における基本的な考え方です。</p> <p>このような考え方の下、県立高校として生徒の進路志望に応じた多様な学びを提供するとともに、多くの仲間との学校生活を通じて多様な価値観に触れて成長していける環境、それを充実した教育環境と捉えて整備したいと考えております。</p> <p>検討時間に係る御意見について、県教育委員会では、中学生の進路選択に資するよう、毎年10月には翌年度募集人員と併せ翌々年度の募集人員の見込みを公表しているところであり、令和5年度からを計画期間とする第2期実施計画については、10月頃までには策定したいと考えております。ただし、たくさんの御意見があると思うため、御意見は全て伺った上で教育委員会会議において検討します。</p>	<p>第2期実施計画（案）は「案」の段階であり、地区懇談会等を通じて、様々な方を対象に、第2期実施計画（案）に対する県教育委員会の考え方などを御説明した上で、幅広い御意見をいただきたいと考えております。</p> <p>県教育委員会では、中学生の進路選択に資するよう、毎年10月には翌年度募集人員と併せ翌々年度の募集人員の見込みを公表しているところであり、令和5年度からを計画期間とする第2期実施計画については、仮に決定時期を大幅に遅らせた場合、現在の中学校2年生の見通しを持った進路選択に支障が生じることから、適切な時期に決定する必要があると考えております。ただし、たくさんの御意見があると思うため、追加の地区懇談会において御意見を全て伺った上で教育委員会会議で検討を進めて参ります。</p>

No	区分	意見・提案の内容	7月30日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
28	計画策定の進め方	本日の参加者は、ほとんどの方が浪岡高校を存続してほしい、計画案は到底納得できないとの意見だと思われるため、浪岡地域の代表者と青森市、県教育委員会の3者で、もっと時間をかけて、これから浪岡高校を存続させるためにはどうすれば良いのか議論してはどうかということを提案したい。		<p>第2期実施計画（案）は「案」の段階であり、地区懇談会等を通じて、様々な方を対象に、第2期実施計画（案）に対する県教育委員会の考え方などを御説明した上で、幅広い御意見をいただきたいと考えております。</p> <p>県教育委員会では、中学生の進路選択に資するよう、毎年10月には翌年度募集人員と併せ翌々年度の募集人員の見込みを公表しているところであり、令和5年度からを計画期間とする第2期実施計画については、仮に決定時期を大幅に遅らせた場合、現在の中学校2年生の見通しを持った進路選択に支障が生じることから、適切な時期に決定する必要があると考えております。ただし、たくさんの御意見があると思うため、追加の地区懇談会において御意見を全て伺った上で教育委員会会議で検討を進めて参ります。</p>
29		いきなり新聞で閉校や統合と示して、その後に地区懇談会を開催するのは卑怯である。事前に青森市にも浪岡地域にも話がない。浪岡高校に通っている生徒の心情を考慮すれば順序を間違えている。段取りが悪いため、一度仕切り直してほしい。		
30		<p>計画案については、停止・撤回して、高校の在り方や学校配置を青森市と熟慮を重ねて、抜本的に見直すべきである。</p> <p>岩手県教育委員会では、議論が不十分だということで、高校再編計画を1年延期したと聞いており、本県においても、意見を聞くだけで10月に決定するのではなく、参加者からもあまりにも性急だという意見もあることを踏まえ、是非検討期間を延長して議論し、浪岡高校を存続してほしい。</p>		

No	区分	意見・提案の内容	7月30日の回答内容	補足（計画案作成の考え方等）
31	計画策定の進め方	<p>この会場の中で現在、高校生の子どもの保護者は非常に少ない。参加者から「子どものため」、「中学生が行きたい」などとして意見が出されているが、実際、中学生が浪岡高校に進学したいと思えるかが一つの論点だと考えている。「夢ある浪岡地域」など耳障りのいい言葉を並べても現状は変わらない。浪岡中学校に通っている弟に浪岡高校に進学したいか聞いたときには、はっきりと嫌だと答えている。学費等の負担増についての意見があったが、家族ぐるみで子どもや孫の進学、通学を支援しなければならない状況となった上で家計が逼迫しているのであれば筋は通っていると思うが、予測に過ぎないと思っている。参加していない保護者の子どもが進学するだろうから浪岡地域に高校を残すべきだという議論になっており、意味を感じない。中・高校生の保護者が興味を示さない時点で、地区懇談会自体が破綻しているのではないか。</p>		<p>いただいた御意見を踏まえ、時間帯を変更した上で地区懇談会を追加開催することとしました。</p>
32		<p>浪岡高校は地域貢献など浪岡地域の中で良い取組をしているとの意見もあったが、中学生やその保護者は進路選択する際、そのような取組を見るのではなく、偏差値やどのような大学に進学できるのかといった視点で選択している。存続に向けた協議をするならば、もう一年かけて浪岡高校の宣伝や全国からの生徒募集の導入などに取り組んだ上で、浪岡高校を存続するかどうかが議論する方がより充実した地区懇談会になるのではないか。</p> <p>未来をつくっていくのは、大学生、高校生、中学生である。他の統合のケースにも共通して言える話だが、実際に中・高校生の意見を聞かずに統合するのはいかがなものかと思うので、浪岡高校への進学者が少ない原因を突き止めた上で対応を考えていくべきではないか。大人だけの頭ごなしの判断で進めたところで、子どもたちにとって本当に価値あるものになるのかといった観点も含めて検討してほしい。</p>		
33		<p>本日、意見を述べたかったができなかったと言いつつながら帰った方がたくさんいた。他の参加者も、本当はもっと発言したいが時間がない方が多数だと思う。今回のような時間設定では、中・高校生は参加できないため、是非開催時間を考慮し、保護者も参加できるようにして、もう一回地区懇談会を開催してほしい。</p>	<p>御意見を述べたい方が多数おられると思われる、また、中・高校生の保護者の御意見も伺う必要があると思うため、日程調整の上、改めて追加で地区懇談会を開催する方向で検討します。</p>	